

42
260



始



14.21-260

鑛物調查報告

(北海道之部)

第二十七號





大正七年十月

調查報告

第二十七號

地質調查所

發行所寄贈本

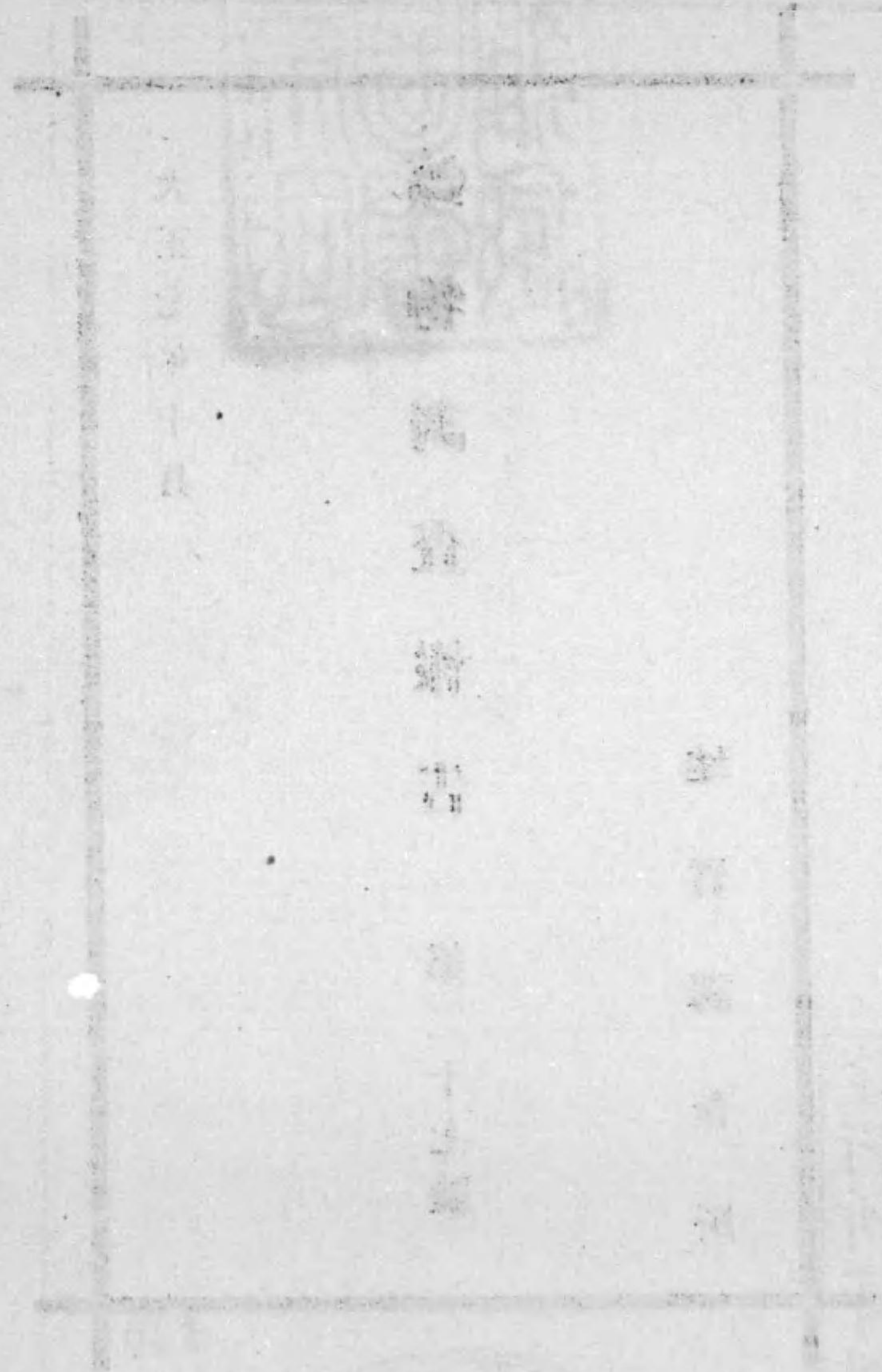
120



鑛物調査報告第二十七號

目次

釧路國阿寒炭田調査報文



釧路國阿寒炭田調査報文

釧路國阿寒炭田調査報文
目次
第一章 阿寒炭田の概況
第二章 阿寒炭田の地質
第三章 阿寒炭田の地質調査
第四章 阿寒炭田の地質調査結果
第五章 阿寒炭田の地質調査の結論

釧路國阿寒炭田調查報文

目次

第一章	位置及交通	一頁
第二章	地形	七頁
第三章	地質	一〇頁
一	白堊紀層	一二頁
二	下部第三紀層	一四頁
(一)	下部含炭層	一七頁
(二)	中部含炭層	一九頁
(三)	上部含炭層	二二頁
三	中部第三紀層	二五頁
	黑色頁岩層	二五頁

四	上部第三紀層	二七頁
	暗灰色頁岩層	二八頁
五	第四紀層	三〇頁
	(一) 塔段堆積層	三〇頁
	(二) 沖積層	三〇頁
六	火山碎屑岩	三〇頁
	安山岩質集塊岩	三〇頁
第四章	地質構造	三一頁
第五章	白堊紀層及第三紀層ノ層位	三六頁
第六章	石炭	四二頁
	一 南部區域	四三頁
	二 北部區域	五六頁
第七章	結論	六一頁

釧路國阿寒炭田調査報文

農商務技師 門倉 三能

大正六年九月上旬命ニ依リ北海道ニ出張シ同十一月下旬ニ至ル約三箇月ヲ以テ釧路國阿寒炭田ヲ調査セリ、茲ニ其結果ヲ報告ス

第一章 位置及交通

釧路國阿寒炭田ハ阿寒火山ノ南側ニ位シ阿寒郡ノ西部ヲ占メ舌辛村及徹別村ノ一箇村ニ跨レル産炭地ノ總稱ニシテ東ハ阿寒川本流ニ限ラレ、西ハ新區舌辛川及庶路川ノ分水嶺ヲ以テ白糠郡ニ接シ、南ハ殿來及丹根内ニ、北ハ「テシユベツ」流域ニ達ス、即チ「テシユベツ」舌辛川、新區舌辛川等ノ上流及中流ノ地方ヲ包括ス、本炭田ハ更ニ南西方ニ延ヒ庶路川上流ヨリ茶路川支流「ノイベツ」ヲ經テ音別川支流「カラマ」ニ互レル産炭地ニ連続ス

調査區域ニ近ク釧路國ヨリ十勝國ノ一部ニ互リテ産炭地多ク、南ニハ阿寒郡ツチャップ川ヨリ白糠郡白糠驛ニ互レル舌辛炭田及白糠、庶路炭田(鑛物調査報告第二十一號)、南東ニハ釧路港ニ近ク釧路郡、厚岸郡及川上郡ニ跨レル釧路炭田(鑛物調査報告第二十五號)、西ニハ白糠郡ヨリ十勝國十勝郡ニ互レル浦幌炭田(鑛物調査報告第十八號)アリ

調査區域ハ人煙稀薄ノ山地ニシテ舌辛ヲ除ケハ特ニ市街地ト稱スヘキモノナシ、阿寒川本流及舌辛川下流ノ沿岸平地又ハ塔段地ハ既ニ開墾セラレ農家點在シ或ハ處々ニ放牧地トシテ存スルモノ少ナカラス、開墾地トシテ阿寒川流域ニハ飽別、上徹別、中徹別及下徹別ヲ包括セル徹別原野アリ、其南西ニハ阿寒川流域ノ一部ヨリ舌辛川流域ニ互リ阿寒通、舌辛市街地、知茶布、布伏内及丹根内ヲ包括セル舌辛原野アリ、其ニ地味肥沃ニシテ豆類、根菜類等ノ收獲多シ、林業ハ阿寒川上流「テシユベツ」及舌辛川ニ於テ盛大ニシテ木材ハ河川ヲ利用シテ之ヲ流送ス

舌辛市街地ハ調査區域ニ於ケル唯一ノ大部落ニシテ大樂毛驛ヲ距ル

北方ニ四里半、阿寒川ト舌辛川トノ合流點ニ位シ、附近ニ於ケル農産物集散ノ仲繼市場ニシテ戸數約八十ヲ有シ阿寒郡全村戸長役場ノ所在地ニシテ又郵便局及驛遞所ノ設アリテ交通稍頻繁ナリ、而シテ阿寒川ノ二股ヨリ下流ハ水深ク流緩ニシテ能ク舟楫ニ便シ舌辛市街地ト釧路港トノ間ニ不定期船ノ就航アリ

舌辛市街地ノ西方十餘町ニ澤口炭礦アリ、本炭礦ハ嘗テ釧路炭礦或ハ乙別炭礦ト稱セシモノニシテ舌辛、大樂毛間ニ其經營ニ係レル運炭用馬車軌道アリシモ同炭礦ノ廢業ト共ニ之ヲ撤セシヲ以テ巡回ノ當時澤口炭礦ニ於テ該軌道ノ再設ヲ企畫シ炭礦ノ再開ニ著手セリ

舌辛市街地ノ外「アキベッコタン」及布伏内ノ小部落アルモ「アイヌ」土人ノ定住者アルノミ、近年俄ニ發展セル小部落ハ阿寒川上流ノ恩根内ニシテ目下起工中ノ水力發電所ハ釧路興業株式會社ノ經營ニ係リ其完成ノ曉ニハ茲ニ得タル電力ヲ釧路港ニ送り以テ工業ノ動力ニ供スト云

調査區域ニ於ケル交通ノ幹線ハ釧路及北見ノ二國ヲ通スル所謂阿寒街道ニシテ南ハ大樂毛驛ニ於テ釧路鐵道ニ、北ハ美幌驛ニ於テ網走鐵道ニ達シ以テ釧路及網走ノ二港ヲ連絡ス、沿道ニハ釧路國ノ舌辛市街地、飽別、「ルベシユベ」及阿寒湖畔、北見國ノ翻木禽及津別ニ官設驛遞所ノ設アリテ專ラ内陸ノ運輸交通ヲ司レリ、本街道ノ内釧路國側ハ概シテ平地又ハ塔段地ニ開鑿セラレ車輛ノ輓用ニ適スルモ「ルベシユベ」以北ニハ處々ニ急坂アリ又々架橋ナキ河川アリテ僅ニ人馬ヲ通スルニ過キス

舌辛市街地ヲ起點トスル開鑿道路ハ舌辛川ニ沿ヒ知茶布及布伏内ヲ經テ新區二股ニ至リ茲ニ分岐シテ一ハ北方殿來ニ、一ハ西方丹根内ニ達スルモ往々河上ニ橋梁ナク車輛ノ輓用不能ナル箇處アリ、此外殿來、奔舌辛間ヲ通スル小徑アリ

本所地形係ニ於テ是等ノ交通線路ヲ測量セシ結果ヲ表示セハ左ノ如シ

一 阿寒街道ノ里程表

地 點 名	基點ヨリ各地點ニ至ル距離	二地 點 間ノ 距離
舌辛市街地分岐點	基點	
阿寒橋	一里二十町三十二間	一里二十町三十二間
下徹別小學校	二里八町四十八間	二十四町十六間
中徹別「プトクンネナイ」	三里六町一間	三十三町十三間
飽別驛遞所	四里十九町八間	一里十三町七間
飽別小學校	五里三十七間	十七町二十九間
恩根内	六里二十一町三十一間	一里二十町五十四間

二 新區開墾道路ノ里程表

地點名	基點ヨリ各地點ニ至ル距離	二地點間ノ距離
舌辛市街地分岐點	基點	
知茶布	一里六町五十三間	一里六町五十三間
新區二股小學校	二里七町二十間	一里二十七間
丹根内	二里三十四町三間	二十六町四十三間
新區二股小學校	前出	
殿來	三里二町五十四間	三十一町三十四間
奔舌辛	四里十七町十三間	一里十四町十九間
「オシヨンナイ」	四里三十二町八間	十四町五十五間

第二章 地形

調査區域ハ阿寒火山群ノ南側ニ位スル山地ニシテ數條ノ山脈連互シ稍著シキヲ北境ノ山脈及西境ノ郡界山脈ナリトス北境ノ山脈ハ阿寒火山群ノ外輪山ノ一部ヲ構成スルモノニシテ畧東西ニ走り高距九百米アリ、郡界山脈ハ畧南北ニ走り調査區域ノ南部「ソ」ポコマナイ「ツチャップ」川間ニ於テ最モ低夷ニシテ高距二百米ナルモ北スルニ從ヒ漸次高ク「テシユベツ」上流及「アキベツ」上流ノ間ニ於テ最モ高峻ニシテ微別岳ノ如キハ高距九百五米ニ達ス、主ナル支脈ハ北々西ヨリ南々東ニ走り三條アリ、「アキベツ」ト「テシユベツ」トノ分水嶺、「テシユベツ」ト「舌辛川」トノ分水嶺、舌辛川ト新區舌辛トノ分水嶺即チ是レナリ、概シテ調査區域ハ北々西ニ高ク高距五百米乃至千米ノ山地ヲナシ漸次南々東ニ遞下シ高距三百米乃至五百米ノ山地トナリ終ニ阿寒川及舌辛川下流ノ流域ニ至リ高距八十米乃至百米ノ臺地性丘陵地トナル、之ニ沿ヒテ廣濶ナル塔段地發達ス

調査區域ノ主ナル河流ハ阿寒川及其支流「アキベツ」、「テシユベツ」、舌辛川等ナリトス

阿寒川ハ源ヲ阿寒湖ニ發シ南流スルコト十一里ノ間ニ「アキベツ」、「テシユベツ」、舌辛川等ノ諸水ヲ集メ舌辛市街地ニ達シ且之レヨリ急ニ流路ヲ東ニ轉シ流ル、コト三里餘ニシテ「ニニシベツ」ヲ合セ南東ニ轉シ更ニ四里餘ニシテ釧路港ニ至リ釧路川ニ入ル、舌辛、釧路間ニハ舟楫ノ便アリ

「アキベツ」ハ源ヲ郡界山脈及阿寒外輪山ニ發シ流程南々東二里半ニシテ飽別ニ於テ阿寒川ニ會ス、下流沿岸ニハ塔段地發達シ中流ニハ兩岸ニ岩崖多キモ河床ノ傾斜ハ緩慢ニシテ瀧ナシ、之ニ反シテ上流ノ河床ハ急傾斜ヲナシ瀧多ク右股「シモンアキベツ」ノ水源地ニ近ク高サ七十五米ノ大瀑布アリ、右股「ハリキアキベツ」ハ兩岸ニ岩崖連續シ所謂峽谷ヲ形成ス

「テシユベツ」ハ郡界山脈ノ徹別岳ニ發源シ畧「アキベツ」ニ並行シテ流ル、

コト五里、中徹別ニ於テ阿寒川ニ會ス、河床ハ概シテ緩傾斜ヲナシ瀧少ナシ、下流沿岸ニハ廣濶ナル塔段地發達シ將ニ開墾ニ着手セラレントス、河口ヨリ湖ルコト一里半乃至三里ノ山越澤及佐々木澤附近ニハ炭層ノ露頭多ク、河口ヨリ四里半ノ上流二股附近ニモ亦炭層ノ露頭少ナカラス

舌辛川ハ阿寒川ノ大支流ニシテ舌辛市街地ノ北ニ於テ阿寒川ニ會ス、是ヨリ湖ルコト二里餘、新區二股ニ至リ分岐ス、右股ハ舌辛川ト稱シ流程四里餘ニ過キサルモ左股ハ本流ニシテ新區舌辛川ト稱シ流程八里餘アリ、新區舌辛川及舌辛川ノ流域ハ本炭田ノ大部ヲ領シ、新區二股以南ノ下流沿岸ニハ塔段地又ハ平地發達シ共ニ既ニ開墾セララル、所謂舌辛原野是レナリ

新區舌辛川ノ本流ハ郡界山脈ニ發源シ上流ニテ西新區舌辛川ト稱ス、本川ハ新區上流二股ニ於テ茲ニ西流セル東新區舌辛川ヲ合シ南流スルコト三里餘、下ノ大瀧ヨリ急ニ流路ヲ東ニ轉シ二里二十二町ニシテ

新區二股ニ至ル、而シテ「ソーボコマナイ」ヨリ下ノ大瀧ヲ經テ上ノ大瀧ニ至ル二里餘ノ間ハ峡谷ヲ形成シ河床並ニ兩岸ノ懸崖ニハ大小幾多ノ瀑布アリテ徒涉困難ナリ、之ニ反シ上ノ大瀧以北ノ上流ハ俄ニ河床及兩岸ノ傾斜緩慢トナリ谷底平坦ニ、徒涉容易ナリ、新區舌辛川ノ中流即チ「クンネチシナイ」附近及其上流ノ西新區舌辛川並ニ東新區舌辛川ニハ炭層ノ露頭多シ

舌辛川ハ東新區舌辛川ト「テシユベツ」トノ分水嶺ニ發源シ略「テシユベツ」ト並行シテ南流シ奔舌辛川及「ベルツナイ」ヲ容レ新區二股ニ至リ新區舌辛川ニ合ス、河床ノ傾斜ハ概シテ緩慢ナルモ「ベルツナイ」ニ於テハ「ニセイ」、「ウヌンコイ」間一里餘ニ互リ峡谷ヲ形成シ瀧多ク最モ大ナル「ウヌンコイ」ノ瀧ノ如キハ高サ約二十米ニ達セリ、本川ハ殆ント全流域ニ互リ炭層ノ露頭多シ

第三章 地質

調査區域ヲ構成スル地質ヲ左ノ如ク區別ス

- 一 白堊紀層 頁岩層
 變岩、砂岩層
- 二 下部第三紀層(含炭層)
 - (一) 下部含炭層 頁岩、砂岩層(下部植物化石層)
 赤色變岩層
 - (二) 中部含炭層 砂岩、頁岩層(中部植物化石層)
 砂岩層(牡蠣層)
 頁岩層 (動物化石層)
 - (三) 上部含炭層 頁岩層
 砂岩、頁岩層(上部植物化石層)
- 三 中部第三紀層
 黑色頁岩層
- 四 上部第三紀層
 暗灰色頁岩層

五 第四紀層

(一) 塔段堆積層

(二) 沖積層

六 火山碎屑岩

安山岩質集塊岩

一 白堊紀層

白堊紀層ハ「ベルツナイ」中流ヨリ新區舌辛川下流ニ互リテ稍廣キ地積ヲ領シ高距三百米乃至五百米ノ山地ヲ構成ス、而シテ溪谷ハ深ク削剝セラレ懸崖相連リテ峽谷ヲ成シ河床ニハ大小ノ瀑布甚々多シ
本層ハ主ニ硬質頁岩及砂岩ノ互層ヨリ成リ下部ニ砂岩、頁岩層、中部ニ頁岩層、上部ニ變岩、砂岩層發達ス
砂岩、頁岩層 ハ白堊紀層ノ大半ヲ占ムル地層ニシテ介化石ヲ含有ス、砂岩ハ黑色又ハ綠黑色ヲ呈シ細密堅硬ニシテ頁岩ニ類似シ板狀ニ剝離スル性アリ、頁岩ハ黑色ヲ呈シ堅緻ニシテ著シク板狀ニ剝離ス

本互層中ヨリ採取シタル動物化石ノ内鑑識シ得タルモノハ左ノ如シ

Nucula picturata Yokoyama.

Nuculana cf. angulata Sow.

Nuculana cf. mariae d'Orb.

Solen sp.

Tellina sp.

頁岩層 ハ主ニ頁岩ヨリ成リ砂岩ノ薄層ヲ挾有ス、頁岩ハ黑色若クハ暗褐色ヲ呈シ緻密ニシテ小破片ニ崩壊シ易ク泥灰岩球ヲ包藏ス
變岩、砂岩層 ハ白堊紀頁岩層ト下部第三紀層トノ間ニ介在シ以テ兩層ノ境界ヲ劃スル標準層タリト雖モ層厚ノ變化甚々シク忽チニシテ膨大シ又ハ縮迫ス
變岩ハ外觀暗綠色ヲ呈シ質堅硬ナルモ概シテ霉爛シ易ク露出部ニ於テハ茶褐色ヲ呈スルヲ常トス、礫ハ拳大ヨリ鶏卵大ニ至ル圓キ古期粘板岩、硬砂岩、珪岩、花崗岩等ヨリ成リ暗綠色ノ石灰質物ヲ以テ膠結セラ

ニ示セル如クニシテ多量ノ化石ヲ含有スル地層四帶アリ、即チ下部植物化石層、中部植物化石層、動物化石層及上部植物化石層是レナリ、下部植物化石層ト中部植物化石層トノ間ニハ化石ヲ含有セサル赤色蠻岩層挾在ス、一般ニ植物化石層ハ砂岩及頁岩ノ互層ヨリ成リ數多ノ炭層ヲ挾有ス、而シテ動物化石層ハ炭層ヲ挾有スルコトナク其上部ニ化石ヲ含有スル頁岩層、其下部ニ牡蠣化石ヲ含有スル砂岩層發達ス、更ニ岩質並ニ層序ニ依リ本層ヲ細別セハ頁岩、砂岩層(下部植物化石層)赤色蠻岩層、砂岩、頁岩層(中部植物化石層)、砂岩層並ニ頁岩層(動物化石層)及砂岩、頁岩層(上部植物化石層)ニシテ中部植物化石層ノ砂岩、頁岩層ハ其上部ニ砂岩或ハ蠻岩ノ發達著シキコトアリ、是等各地層ハ互ニ整合シテ累重スト雖モ赤色蠻岩層ノ全部及砂岩、頁岩層(中部植物化石層)ノ上部ニ發達スル砂岩或ハ蠻岩ハ下部第三紀層ノ堆積當時地盤ノ最モ隆起シ而カモ水面以上ニ露ハル、コトナキ状態ノ下ニ堆積セル瀕海成地層ナリ、故ニ該兩地層ヲ標準トシテ下部第三紀層ヲ上、中、下ノ三部ニ區

分シ之ヲ表示セハ左ノ如シ

- (一) 下部含炭層 頁岩、砂岩層(下部植物化石層)
赤色蠻岩層
- (二) 中部含炭層 砂岩、頁岩層(中部植物化石層)
- (三) 上部含炭層 砂岩層
頁岩層
(動物化石層)
砂岩、頁岩層(上部植物化石層)

北部區域ニ露出スル下部第三紀層ハ砂岩及頁岩ノ互層ヨリ成リ多量ノ植物化石ヲ包藏シテ含化石帶ヲナシ炭層ヲ挾有ス、本層ハ其埋藏化石、岩質、地質構造等ヨリ之ヲ推スルニ南部區域ニ於ケル上部含炭層上位ノ砂岩、頁岩層(上部植物化石層)ニ該當スルカ如シ

- (一) 下部含炭層

下部含炭層ハ厚サ約百五十米乃至二百米ノ累層ニシテ下部ニ頁岩、砂岩層、上部ニ赤色蠻岩層發達ス

頁岩、砂岩層(下部植物化石層)ハ菲薄ナル炭層ヲ介有シ又木葉化石ヲ埋藏ス、頁岩ハ外觀暗灰色又ハ灰色ヲ呈ス、暗灰色種ハ緻密ニシテ層理不明ニ稍厚層ヲナス、灰色種ハ層理明カニシテ泥灰岩或ハ砂質頁岩ノ薄層ヲ挾有シ時ニ木葉化石ヲ介有スルコトアリ、砂岩ハ帶綠淡灰色ノモノ普通ニシテ其外灰白色ヲ呈シ凝灰質ナルモノアリ、本岩ハ質概シテ脆弱ニシテ炭質物若クハ木葉化石ヲ挾有スルコトアリ
本累層中ヨリ採取シタル植物化石ノ内鑑識シ得タルモノハ左ノ如シ

Sphenopteris blomstrandii Hr.

Equisetum cf. arcticum Hr.

Taxodium disticum micocennum Hr.

Sequoia langsdorffi Hr.

Juglans nigella Hr. ?

Populus sp. (not *Populus arctica*.)

Zelkova ungeri Kov. or *nerovosa* New.

Dycotyledons.

「ペルツナイ」ニ於テハ植物化石ニ伴ヒテ昆蟲化石ヲ産出シ露人「クリシュトフオウイッチ」氏ノ鑑定ニ依レハ該化石ハ *Cur ulionites aff. nitidula*. ナリト云フ
赤色變岩層 ハ主ニ變岩ヨリ成リ頁岩若クハ砂岩ノ薄層ヲ挾有シ又菲薄ナル炭層ヲ介有スルコトアリ、變岩ハ赤色、綠色、灰白色、暗黑色等ノ礫ヲ有シ外觀雜色ヲ呈スルモ就中赤色ノモノ最モ多ク假リニ之ヲ赤色變岩ト稱ス、礫ハ赤色硅岩、赤色輝綠凝灰岩、綠色輝綠凝灰岩、硬砂岩、粘板岩等ノ古期水成岩並ニ花崗岩、玢岩等ノ火成岩ヨリ成リ稜角ナク腕豆大若クハ胡桃實大ナリ、膠結物ハ概ネ砂ヨリ成ルモ石灰質ニシテ堅硬ナルアリ

(二) 中部含炭層

中部含炭層ハ厚サ約二百五十米乃至三百米ノ累層ニシテ主ニ砂岩及頁岩ノ互層ヨリ成リ赤色變岩ノ薄層ヲ挾有ス
砂岩、頁岩層(中部植物化石層) ハ阿寒炭田ニ於ケル最モ重要ナル炭層

ヲ介有シ又木葉化石ヲ埋藏ス、砂岩ハ淡灰色或ハ灰白色ノモノヲ普通
トシ其他暗灰色ヲ呈スルモノアリ、淡灰色種ハ質稍堅緻ニシテ層理ヲ
示シ風化スレハ層理面ニ沿ヒ剝離スルノ性ヲ有シ時ニ炭質物若クハ
木葉化石ヲ挾有シ又保存不完全ナル化石 *Cyrtina* 等ヲ包藏スルコトアリ、
灰白色種ハ凝灰質ヲ帶ヒ概ネ脆弱ニシテ厚層ヲナシ層理不明ナリ、暗
灰色種ハ石灰質ヲ帶ヒ極メテ堅硬ニシテ稍規則正シキ多角體ニ破碎
スルノ性ヲ有シ普通厚サ十尺内外ノ薄層ヲナシテ砂岩或ハ頁岩中ニ
介在ス、頁岩ハ暗灰色緻密ニシテ層理不明ニ、玉葱狀ニ崩壞スルノ性ヲ
有スルモノ多シ、其外灰色ニシテ層理明カニ、木葉化石ヲ挾有スルモノ
アリ、蠻岩ハ其礫ノ種類下部含炭層ノ赤色蠻岩ニ類似シ、珪岩、輝綠凝灰
岩、硬砂岩、粘板岩、花崗岩、玢岩等ヨリ成リ赤色ノ礫最モ多ク、之ニ交フル
ニ白色ノ礫ヲ以テセリ、礫ノ大サハ普通豌豆大若クハ胡桃實大ニシテ
其細小ナルモノハ砂岩ニ推移ス、膠結物ハ砂ニシテ火山灰ヲ混スルコ
トアリ、赤色蠻岩ハ薄層ヲナシ中部含炭層中處々ニ之ヲ目撃スルモ稍

著シキハ本累層ノ上部ニ位スル砂岩中ニ挾在シ、舌辛川上流ニ於テハ
其厚サ五尺乃至二十尺ニ達セリ
本累層中ヨリ採取シタル植物化石ノ内鑑識シ得タルモノハ左ノ如シ

Sequoia langstonii Hr.

Alnus kefersteinii Goepf.

Populus arctica Hr.

Populus latior Al. Braun.

Populus mutabilis Hr.

Populus sp.

Comptonia cf. obtusiloba Sapp.

Alnus nostratum Hr.

Alnus kefersteinii Hr.

Quercus ainorum n. sp.

Aesculopyllum sp. ?

Vitis arctica Hr.

Celastrrophyllum boreale Hr.

(三) 上部含炭層

上部含炭層ハ厚サ約三百米乃至五百米ノ累層ニシテ下部ニ砂岩層(牡蠣層)中部ニ頁岩層、上部ニ砂岩、頁岩層發達ス

砂岩層(牡蠣層)ハ牡蠣化石ヲ包藏スルコト多ク含化石帶ヲナス、砂岩ハ淡灰色ヲ呈シ粗粒ナリ、其一部ニ凝灰質ニシテ脆弱ナルモノアリ、又石灰質ニシテ堅硬ナルモノアリ

本層中ヨリ採取シタル動物化石ノ内鑑識シ得タルモノハ左ノ如シ

Ostrea cf. sigas Thunberg.

Cyrena sp.

Corbicula sp.

Modiola sp.

Cardium sp.

頁岩層ハ介化石ヲ包藏スルコト多ク含化石帶ヲナス、頁岩ハ暗灰色乃至黑色ヲ呈シ質緻密ニシテ層理不明ニ、小破片ニ破碎スルノ性ヲ有シ灰白色ノ泥灰岩球稀ニ暗褐色ノ砂岩球ヲ包藏ス

本層中ヨリ採取シタル動物化石ノ内鑑識シ得タルモノハ左ノ如シ

Mya crassa Grewingk.

Mya cf. arenaria L.

Tellina sp.

Venericardia compressa Yok.

Ostrea sp. (砂岩球中)

Cardium islandicum Falv.

Turritella erosa Conth.

Buccinum sp.

Natica sp.

Pholas sp.

Dentalium sp.

Crinoids.

砂岩層及頁岩層ハ多量ノ動物化石ヲ包藏シ一ノ含化石帶ト思惟スルヲ得ヘク、南部區域ニ廣ク頒布シ上部含炭層ノ下位ニ發見セラル、隨テ下部第三紀層ノ地質構造並ニ炭層ノ層位ヲ定ムル標準トシテ重要ナルモノナリ

砂岩、頁岩層(上部植物化石層)ハ主要炭層ヲ介有シ木葉化石ヲ埋藏ス、砂岩ハ淡灰色緻密ニシテ層理明カニ、木葉化石ヲ挾有ス、此外暗褐色ナルモノアリ、石灰質ニシテ極メテ堅硬ニ、屢化石 *Corbicula* sp. ヲ包藏ス、頁岩ハ灰色ニシテ層理明カニ、往々木葉化石ヲ埋藏シ泥灰岩球ヲ包藏スルコトアリ

本累層中ヨリ採取シタル植物化石ノ内鑑識シ得タルモノハ左ノ如シ

Sequoia langsdorfi Hr. var. *obtusicaulis* Hr.

Quercus sp. cf. *Q. olofsenii* Hr. or *greenlandica* ?

Zalkova nervosa Newb.

Platanus guillelmae Hr.

Vitis arctica Hr.

下部第三紀層中ノ植物化石ハ其種類概シテ大差ナキモ *Sphenopteris blomsterandii* 及 *Equisetum* ハ特ニ下部含炭層中ニ限リ、*Zalkova* ハ下部含炭層及上部含炭層中ニ、*Vitis arctica* ハ中部含炭層及上部含炭層中ニ産セリ

三 中部第三紀層

茲ニ中部第三紀層ト稱スルハ黑色頁岩層ニシテ從來上部第三紀層中ニ包括セラレシモノナルモ其含有化石並ニ岩質ニ徵スルニ石狩炭田ニ於ケル矢部博士ノ所謂幌内層ニ該當スヘキモノナリ、本層ハ下部第三紀層ノ外側ニ沿ヒ帶狀ヲナシテ布衍セリ

黑色頁岩層 ハ主ニ頁岩ヨリ成リ砂岩及集塊岩ヲ挾有ス、頁岩ハ黑色

或ハ暗灰色ヲ呈スルモ風化スレハ灰白色又ハ淡黃褐色ニ變シ質堅緻ニシテ凝灰質ナリ、稀ニ著シク硅質ノモノアリ、其層理ハ明カナラスシテ稜角アル細片ニ破碎シ易ク往々柔軟ナル頁岩ノ薄層ヲ挾有シ又泥灰岩球ヲ埋藏ス、化石ハ多ク泥灰岩球中ニ包藏セラル、モ隨處頁岩中ニ埋藏セラル、砂岩ハ普通暗灰色或ハ黑色ヲ呈ス、暗灰色種ハ本層ノ下部ニ多ク薄層ヲナシテ頁岩中ニ挾在シ細粒堅硬ニシテ石灰質ナリ、黑色種ハ本層ノ中部及上部ニ發達シ中粒又ハ粗粒ナルモノ多ク堅硬ニシテ凝灰質ヲ帶ヒ時ニ二十米内外ノ厚層ヲナシテ頁岩ノ薄層ヲ挾有スルコトアリ、本岩ハ東新區舌辛川及「テシユベ」上流ニ於テ峽谷ヲ形成セリ

安山岩質集塊岩ハ黑色安山岩ノ岩塊ヲ火山灰ニテ膠結シタルモノニシテ外觀黑色ヲ呈ス、岩塊ハ普通拳大ニシテ往々徑三尺ニ達スルモ其細小ナルハ黑色砂岩ト識別シ難シ、新區舌辛川支流「オロウエンナイ」及「サルンナイ」ニ於テ中部第三紀層中ニ挾在スル本岩ハ厚サ三十米ニ達シ

黑色砂岩又ハ頁岩ノ薄層ヲ挾有ス

本累層中ニハ特ニ化石ノ密集セル部分ナキモ隨處頁岩中若クハ泥灰岩球中ニ化石ヲ埋藏ス、採取シタル動物化石ノ内鑑認シ得タルモノハ左ノ如シ

- Venericardia compressa* Yok.
- Pecten stanfordensis* Arnold.
- Yoldia* sp.
- Turritella cf. erosa* Couth.
- Baculum* sp.
- Dentalium* sp.
- Voluta megaspira* Sow.
- Cardium muticum* Rye.
- Cerithium* sp.

四 上部第三紀層

茲ニ上部第三紀層ト稱スルハ暗灰色頁岩層ニシテ中部第三紀層ノ南部及東部ノ外側ニ沿ヒ帶狀ヲナシテ布衍シ臺地性丘陵地ヲ構成ス暗灰色頁岩層ハ主ニ凝灰質砂岩、頁岩及凝灰岩ノ互層ヨリ成リ稀ニ安山岩質集塊岩ヲ挾有ス、凝灰質砂岩ハ黑色又ハ暗灰色ナルモ灰白色ヲ呈スルモノアリ、質概ネ脆弱ナルモ時ニ石灰質ニシテ堅硬ナルモノアリ、本岩ハ本層ノ下位ニ良ク發達シ頁岩ト互層シテ厚層ヲナス、凝灰質頁岩ハ外觀黃褐色ナルモ新鮮ナルモノハ暗灰色ヲ呈シ砂質ニシテ稍堅硬ニ、略板狀ニ剝離ス、本岩ノ厚層ヲナシテ現出スルモノハ多ク層理全ク不明ナリ、凝灰岩ハ白色ヲ呈シ浮石質ニシテ粗鬆ナリ、本岩ノ砂岩中ニ介在スルモノハ拳大ノ浮石片ヲ含有シ厚サ數尺アリ安山岩質集塊岩ハ黑色ノ安山岩ノ岩塊ヲ火山灰ニテ膠結シタルモノニシテ其岩質ハ全ク黑色頁岩層中ニ挾在セル集塊岩ニ酷似ス、本岩ハ本層ノ下部ヨリ中部ニ位スル黑色砂岩若クハ凝灰岩中ニ介在シ、殊ニ新區二股附近ニ於テ其發達著シク殿來トビラ「クトビラ」ボルバケウシナイト

ペウシカ」布伏内、「ボルウンナイ」等ニ露出シ其最モ厚キ處ニ於テ厚サ五十米ニ達セリ

本累層ハ化石ヲ埋藏スルコト多カラサルモ其下部ニ位スル砂岩又ハ凝灰岩中ニハ化石 *Pecten* sp. ヲ多量ニ埋藏スル含化石帶アリテ南方舌辛川支流「オクヨクンナイ」ヨリ「テシユベツ」、「アキベツ」、「ウエンベツ」等ノ下流ヲ過キ北方恩根内ニ達セリ

本累層中ヨリ採取シタル動物化石ノ内鑑識シ得タルモノハ左ノ如シ

Pecten aff. *ezoensis* Jay.

Pecten sp.

Mya *crassa* Grewingk.

Mya sp.

Balanus sp.

Teredo sp.

Laganum sp.

五 第四紀層

第四紀層ヲ分チテ塔段堆積層及沖積層トナス

(一) 塔段堆積層

塔段堆積層ハ河流ニ沿ヒテ發達セル塔段地ヲ構成スルモノニシテ主ニ砂、礫及粘土ヨリ成リ火山灰及浮石層ヲ挾有ス、其頒布ハ阿寒川本流、「アキベツ」下流、「テシユベツ」下流及舌辛川ノ新區二股附近ニ於テ著シ

(二) 沖積層

沖積層ハ河岸ノ平地及濕地ヲ構成スルモノニシテ主ニ砂礫ヨリ成リ粘土層ヲ挾有ス

六 火山碎屑岩

安山岩質集塊岩ノ噴出時代ニハ二期アリ、古期ニ屬スル集塊岩ハ外觀黑色ヲ呈シ新區舌辛川及舌辛川ノ下流地方ニ頒布シ、中部第三紀層ノ中部及上部ヨリ上部第三紀層ノ下部及中部ニ互レル地層中ニ挾在ス、本岩ニ就キテハ既ニ之ヲ述ヘタリ

新期ニ屬スル集塊岩ハ外觀暗灰色ヲ呈シ阿寒火山ノ噴出ニ係リ「アキベツ」、「テシユベツ」及阿寒川ニ頒布シテ中部第三紀層、上部第三紀層稀ニ下部第三紀層ヲ不整合ニ被覆ス、本岩ハ其最モ厚キ處ニ於テ厚サ百米餘ニ達シ主ニ輝石安山岩ノ岩塊ヨリ成リ、稀ニ黑曜石、頁岩、砂岩等ヲ雜フルコトアリ、膠結物ハ火山灰ナリ
徹別岳ハ阿寒火山ノ南麓ニ位スル鈍頂圓錐形寄生火山ニシテ新期ノ集塊岩ヨリ成ル岩滓丘ナリ

第四章 地質構造

阿寒炭田ノ地質構造上最モ顯著ナル現象ハ「テシユベツ」上流ヨリ新區上流二股ニ互リテ北東—南西ニ走ル大斷層ヲ境トシ南部區域ト北部區域トニ於テ下部第三紀層ノ構造ノ全ク異ナルコトナリトス
南部區域ニ於テハ其基盤ヲ構成セル白堊紀層ハ新區舌辛川ヨリ「ベルツナイ」ニ互リテ北東—南西ニ走ル一背斜軸ヲ有シ、其兩翼ノ傾斜ハ十五度乃至二十度ナリ、該背斜軸ノ北東端ハ白堊紀層ノ上部ニ位セル蠻

岩、砂岩層ノ地域ニ至リ頓ニ消失セルカ如シ
下部第三紀層ハ白堊紀層ノ外側ニ沿ヒテ發達シ北々東—南々西ニ長
軸ヲ有スル大穹窿狀構造ヲ成ス、本構造ハ上部含炭層ニ屬スル動物化
石層即チ砂岩層(牡蠣層)及頁岩層ノ頒布之ヲ示シ該動物化石層ハ南方
「ソ—ボコマナイ」附近ニ起リ舌辛川ノ奔舌辛「オシヨシナイ」等ヲ經テ北方
舌辛川上流ニ至リ是ヨリ南西ニ轉シ「ベルツナイ」上流及新區舌辛川中
流ノ深澤、足澤等ヲ經テ西方「ニセイウトル」附近ニ終リ、其内側ニハ中部
含炭層及下部含炭層、外側ニハ上部含炭層上位ノ砂岩、頁岩層露出セリ、
地層ノ傾斜ハ一般ニ二十度内外ナルコト多ク、長軸ノ東側ニ於テハ南
東ヨリ北東十八度乃至三十度ニ傾斜スルモ南方「ソ—ボコマナイ」附近
ヨリ「ベルツナイ」下流ニ互リテノミ急傾斜ヲナシ五十度乃至六十度ヲ
示スモノアリ、長軸ノ西側ニ於テハ南西ヨリ北西十五度乃至二十五度
ニ傾斜ス、長軸ノ北端即チ舌辛川上流地方ニ於テハ傾斜緩慢ニシテ北
東ヨリ北西十度乃至十六度ナルコト多シ

北部區域ニ於テハ下部第三紀層ハ東新區舌辛川上流ニ於テ背斜構造
ヲ成シ、背斜軸ハ北々東—南々西ニ走リ南翼ハ傾斜急ニシテ東南東二
十六度乃至四十二度ナルモ時ニ殆ント直立スルモノアリ、之ニ反シ北
翼ノ傾斜ハ緩ニシテ西北西十三度乃至二十度ナリ、西新區舌辛川ニ於
ケル下部第三紀層ハ小半穹窿狀構造ヲ成シ地層ハ十度内外ノ緩慢ナ
ル傾斜ヲ以テ北西ヨリ西南ニ沈降ス
中部第三紀層ハ下部第三紀層ノ外側ニ沿ヒテ發達シ其層向及傾斜ハ
概シテ南部區域ニ於ケル下部第三紀層ノ大穹窿狀構造ニ準スルカ如
ク、南東部ニテハ南東三十五度乃至七十五度ニ、北東部ニテハ北東十五
度内外ニ、北西部ニテハ北西十五度内外ニ傾斜ス
上部第三紀層ハ中部第三紀層ノ南部及東部ノ外側ニ發達ス、其傾斜ハ
著シク緩慢ニシテ南ヨリ南東ニ十度内外ニ傾斜シ時ニ水平ニ近ク累
疊スルコトアリ
調査區域ニハ大小幾多ノ斷層アルモ主ニ下部第三紀層中ニ存在ス、其

著シキモノヲ舉クレハ南部區域ニハ殿來斷層、大曲斷層、「オシヨシナイ」斷層、化石澤斷層、舌辛左股斷層及「クシネチシナイ」斷層、北部區域ニハ東新區舌辛斷層アリ

殿來斷層ハ南部區域ニ於ケル大斷層ニシテ舌辛川支流「オクヨクシナイ」ニ起リ北東ヨリ南西ニ走リ殿來、「オロウエシナイ」、「サルンナイ」ヲ過キ「ソ」ボコマナイ」ニ至リ、南側ニ落下セルカ如ク下部第三紀層ト中部第三紀層トノ境界ヲナス、本斷層ノ北側ニ於ケル下部第三紀層ハ斷層線ニ沿ヒ北東ヨリ南西ニ至ルニ從ヒテ漸次ニ其厚サ薄ク終ニ「ソ」ボコマナイ」附近ニ於テ著シク縮迫シ更ニ南西ニ至ルニ從ヒテ再ヒ其厚サヲ加増シ所謂尖滅整合 (Sphen-conformity or Wedging-conformity) ヲナセリ

大曲斷層ハ舌辛川支流大曲澤ニ起リ北東ニ走リ奔舌辛川ヲ過キ「テシユベツ」支流山越澤ノ南方ニ至リ、南側ニ落下セルカ如ク斷層線ニ沿ヒテ測レル水平ノ喰違ハ約二百五十米ニ及ヘリ

「オシヨシナイ」斷層ハ舌辛川支流「コケトイ」ニ起リ略大曲斷層ニ並行シテ

北東ニ走リ「オシヨシナイ」ノ北方及奔舌辛川ヲ過キ「テシユベツ」ニ至リ北側ニ落下セルカ如ク、斷層線ニ沿ヒテ測レル水平ノ喰違ハ約五百米ニ及ヘリ

化石澤斷層ハ舌辛川支流堤澤ニ起リ略「オシヨシナイ」斷層ニ並行シテ北々東ニ走リ化石澤及奔舌辛川ヲ過キ「テシユベツ」ノ「リビラ」北方ニ至リ、北側ニ落下セルカ如ク斷層線ニ沿ヒテ測レル水平ノ喰違ハ約四百米ニ及ヘリ

舌辛左股斷層ハ舌辛川左股ニ於テ略南北ニ互リ東側ニ落下セルカ如ク其落差明カナラス

「クシネチシナイ」斷層ハ新區舌辛川支流「クシネチシナイ」ノ北ニ起リ東北東ニ走リ「ベルツナイ」上流ヲ過キ舌辛川左股ニ至リ、北側ニ上昇シ其落差三百米ニ達スルカ如シ

東新區舌辛斷層ハ北部區域ニ於ケル大斷層ニシテ新區上流二股附近ニ起リ北々東ニ走リ東新區舌辛川ヲ過キ「テシユベツ」上流ニ至リ、北側ニ上

昇セルカ如ク下部第三紀層ト中部第三紀層トノ境界ヲナス

第五章 白堊紀層及第三紀層ノ層位

阿寒炭田ヲ構成セル地層ハ概ネ北海道東部ノ諸炭田即チ釧路炭田、白糠及舌辛地方及浦幌炭田ニ露出ス、是等地層ヲ對照スレハ左表ニ示スカ如シ

阿寒炭田	白堊紀層	下部第三紀含炭層	中部第三紀黑色頁岩層	上部第三紀暗灰色頁岩層	
釧路炭田	白堊紀層	下部第三紀含炭層	黑色頁岩層	上部第三紀層	砂粘土及礫ノ互層
白糠及舌辛地方	白堊紀黑色堅硬頁岩、砂岩互層	下部第三紀含炭層	黑色頁岩層	上部第三紀層	暗灰色頁岩層
浦幌炭田	下部第三紀層 硬質頁岩、砂岩互層	下部第三紀層 砂岩、變岩互層	黑色頁岩層	上部第三紀層	砂岩ヲ挾有スル頁岩層 砂岩ヲ挾有スル軟質灰色頁岩層

調査區域ニ於ケル白堊紀層ハ隣接セル白糠及舌辛地方ニ於テ渡邊技師ノ白堊紀黑色堅硬頁岩及砂岩互層或ハ浦幌炭田ニ於テ小林技師ノ硬質頁岩及砂岩互層ト稱セシモノニ該當シ、又釧路炭田ニ於テ本官ノ白堊紀層ト稱セシモノト同一層位ニ屬ス、而シテ從來北海道東部ノ諸炭田ニ於ケル本累層ハ化石ヲ埋藏スルコト稀ニシテ僅ニ化石 *Pecten sp.* ヲ得タルノミ、其外介化石ノ破片ヲ採取セシモ保存不完全ニシテ鑑識ニ堪ヘサリシヲ以テ其地質時代明確ナラス、唯其岩質並ニ層序ニ依リ之ヲ下部第三紀含炭層ト判別シ得タルニ過キス

今回本累層中ヨリ採取セシ化石 *Zuercheria picturata Yokoyama*. ハ嘗テ横山博士ニ依リ始メテ石狩炭田産白堊紀化石ノ一新種トシテ記載セラレシモノニ係リ、其後本所小林技師ハ膽振國勇拂郡鵠川流域白堊紀層ノ上部頁岩層中ニ(鑛物調査報告第五號)、山根技師ハ石狩、天鹽兩國ニ跨レル雨龍、留萌炭田ノ白堊紀層中ニ(鑛物調査報告第十號)同種化石ヲ發見セリ、北海道西部ノ白堊紀層ヲ調査セル矢部博士ハ該層ヲ細別シテ上部「ア

▲モナイト層 (Upper Ammonite-beds)、中部三角介層 (Trigonia-sandstone)、下層「ア」モナイト層 (Lower Ammonite-beds) トナシ、又小林技師ハ上部頁岩層、中部厚砂岩、薄頁岩層、下部頁岩、砂岩互層トナセリ、茲ニ調査區域ノ白堊紀層ハ其岩質並ニ含有化石ニ徴シ矢部博士ノ上部「ア」モナイト層及中部三角介層ニ、小林技師ノ上部頁岩層及中部厚砂岩、薄頁岩互層ニ該當スルカ如シ

白堊紀層ノ頁岩層ト下部第三紀含炭層最下位ノ頁岩、砂岩層(下部植物化石層)トノ間ニハ蠻岩、砂岩層ノ介在セルアリテ兩層ノ境界ヲ劃スルニ便ナリ、本層ハ標準層ト稱スヘキモノニシテ其層厚ノ變化著シキモ調査區域ニ於テハ全ク尖滅スルコトナシ、概シテ白堊紀層ハ其上位ニ砂岩發達シ稍瀕海層タルノ性質ヲ示シ下部第三紀含炭層ノ境界ニ近ク蠻岩ヲ挾ミ以テ下部第三紀含炭層ノ最下部ニ屬スル灰白色砂岩ニ推移シ明カニ兩層ノ整合セルヲ示ス

下部第三紀含炭層ハ北海道ノ東部諸炭田ニ於ケル含炭層ト同一層位

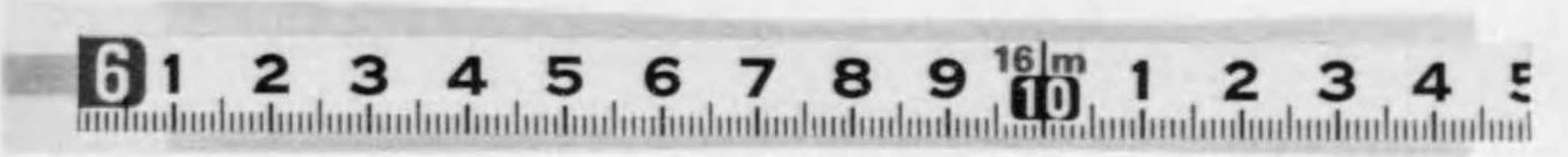
ニアリテ膽振、石狩、天鹽、北見諸國ニ於ケル含炭層ニ該當スヘク、其地質時代ハ蓋シ始新期ヨリ漸新期ニ互レルモノナラン
 茲ニ釧路炭田及阿寒炭田ニ於ケル白堊紀層及下部第三紀含炭層ニ就キテ各地層ヲ對照セ左表ニ示スカ如シ

下部		白堊紀層		釧路炭田		阿寒炭田	
中部含炭層	下部含炭層	頁岩	砂岩及頁岩ノ互層	頁岩	砂岩、頁岩層	砂岩、頁岩層(中部植物化石層)	
赤色蠻岩層	頁岩層(下部植物化石層) 赤色蠻岩層	蠻岩、砂岩及頁岩ノ互層	頁岩層	蠻岩、砂岩層	頁岩層		
	頁岩及砂岩ノ互層(中部植物化石層) 赤色蠻岩層	頁岩層(下部植物化石層) 赤色蠻岩層	頁岩層	蠻岩、砂岩層	頁岩層		

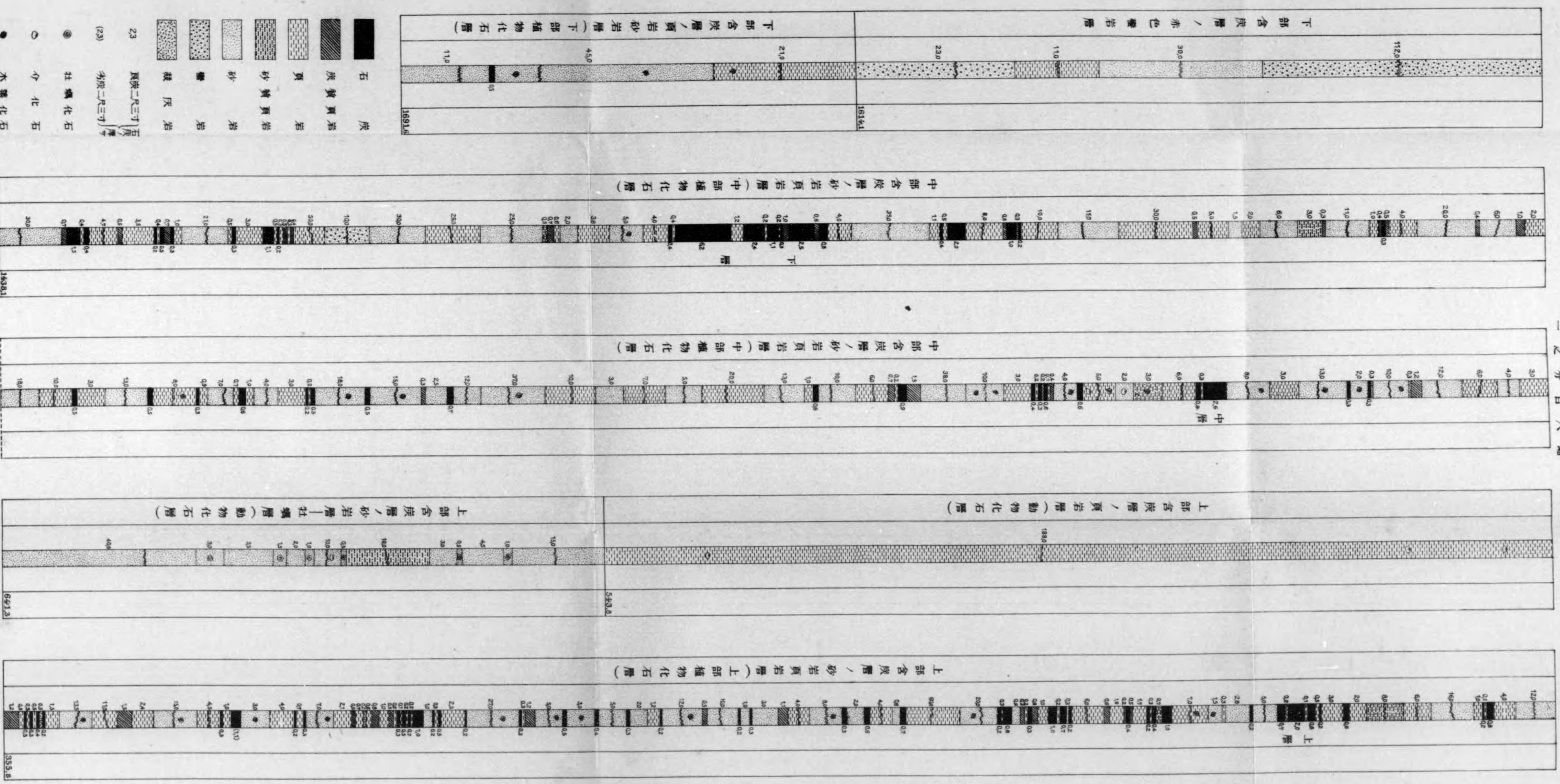
紀		層	
上部含炭層			
頁岩層 (上部植物化石層)	砂岩層 (動物化石層)	頁岩層	牡蠣層 (動物化石層)
砂岩、頁岩層 (上部植物化石層)			

中部第三紀層ハ北海道東部ノ諸炭田ニ於ケル黑色頁岩層ト同一層位ニアリテ其岩質並ニ含有化石ニ徴スルニ石狩炭田ニ於ケル幌内層ニ該當スルモノナルヘシ、本層ハ下部第三紀含炭層ト外觀上整合ニ累疊スルカ如キモ新區舌辛川支流「オロウエンナイ」ニ於テ殿來斷層ノ南方約八十米ノ地ニアル露出ハ第二圖ノ如ク兩層ノ不整合ニ累疊セルヲ示ス、該露出部ニ於テ下部第三紀含炭層ノ砂岩ハ層向北三十度東ニシテ殆ント直立シ之ヲ被覆セル中部第三紀黑色頁岩ハ層向略南北ニシテ東十度ヨリ四十八度ニ傾斜シ小皺曲ヲナス

上部第三紀層ハ北海道東部ノ諸炭田ニ於ケル暗灰色頁岩層ト同一層位ニ屬ス、本層ト中部第三紀層トノ境界ニ近キ處ニ於テ後者ハ多ク二



第一圖 阿寒田吉川流域第三紀下部炭含狀斷面圖

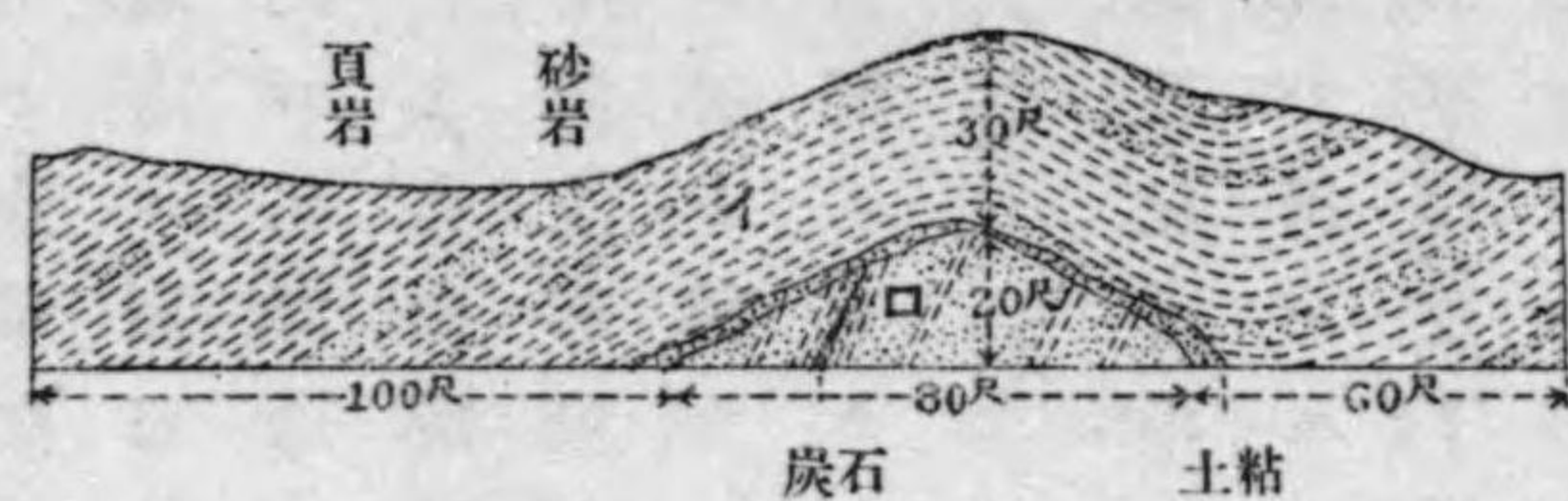


石炭
頁岩
砂岩
礫岩
砂
礫
灰岩
煤
牡蠣化石
介化石
木炭化石

位ニ屬ス本層ト中部第三紀層トノ境界ニ近キ處ニ於テ後者ハ多クニ

圖 二 第

部出露ルケ於ニイナソウロオ川辛舌區新



層炭含(口) 層岩頁色黒(イ)

十度内外ニ傾斜シ時ニ七十度ニ急斜
 スルコトアルモ前者ハ十度内外ニ傾
 斜スルヲ常トス、而シテ中部第三紀層
 及上部第三紀層ノ頒布ヲ比較對照セ
 ハ自ラ兩層ノ間ニ不整合ノ存スルヲ
 推シ得ヘシ
 茲ニ注意スヘキハ古期ノ安山岩質集
 塊岩ニシテ新區舌辛川及舌辛川ノ下
 流地方ニ頒布シ中部第三紀層ノ中部
 及上部ヨリ上部第三紀層ノ下部及中
 部ニ互レル地層中ニ挾在ス、本岩ハ隣
 接地域ノ茶路川及音別川中流地方ニ
 於テ渡邊技師ノ安山岩質角礫凝灰岩
 ト稱セシモノ、又浦幌炭田ノ直別川中

流地方ニ於テ小林技師ノ輝石安山岩及集塊岩ト稱セシモノニ該當スヘシ、蓋シ本岩ハ東部北海道ノ脊梁山脈タル千島火山帯ノ南側ニ於テ大河ノ中流地方ニ頒布シ既ニ調査セシ地域ノミニテモ東西約二十餘里ニ及ヘリ、是レ北海道ニ於テハ黑色頁岩層堆積後暗灰色頁岩層堆積ノ初期ニ互リテ火山活動ノ旺盛ナリシヲ示スモノナリ。

中部第三紀層及上部第三紀層ハ根室、釧路、十勝、石狩、天鹽、北見諸國ニ於テ上部第三紀層ト稱セシモノニ該當スヘク其地質時代ハ蓋シ中部第三紀層ハ中新期ニシテ上部第三紀層ハ鮮新期ナルカ如シ。

第六章 石炭

炭層ハ下部第三紀層中ニ埋藏セラレ其數多キモ平均厚サ二尺以上七尺七寸ヲ採炭シ得ルモノハ三層ニ過キス、之ヲ層序ニ依リ上位ノモノヨリ上層(I)、中層(II)及下層(III)ト稱ス、上層ハ上部含炭層中ニ、中層及下層ハ中部含炭層中ニ介在ス、共ニ未タ稼行セラル、ニ至ラスト雖モ屬望スヘキモノハ下層ニシテ本炭田ニ於テ最モ重要ナリトス。

炭層ノ上下盤ニハ頁岩及砂岩多ク蠻岩ハ極メテ稀ナリ、挾ミニハ頁岩、砂岩、凝灰岩及粘土アリ、炭層ノ厚サ、上下盤、挾ミ等ハ之ヲ柱狀斷面圖(第二版參照)ニ示セリ、而シテ地質圖(第一版參照)及炭層柱狀斷面圖ニハ炭層露頭ノ主要ナルモノ、ミヲ掲ケタリ、本報文ニ於テ炭厚ト稱スルハ炭質ノ優劣ニ拘ラス石炭全部ノ厚サニシテ挾ミノ厚サヲ加算セサルモノナリ、又採炭厚ト稱スルハ稼行シ得ヘキ良炭部ノ厚サニシテ層厚ト稱スルハ炭層ノ厚サナリトス。

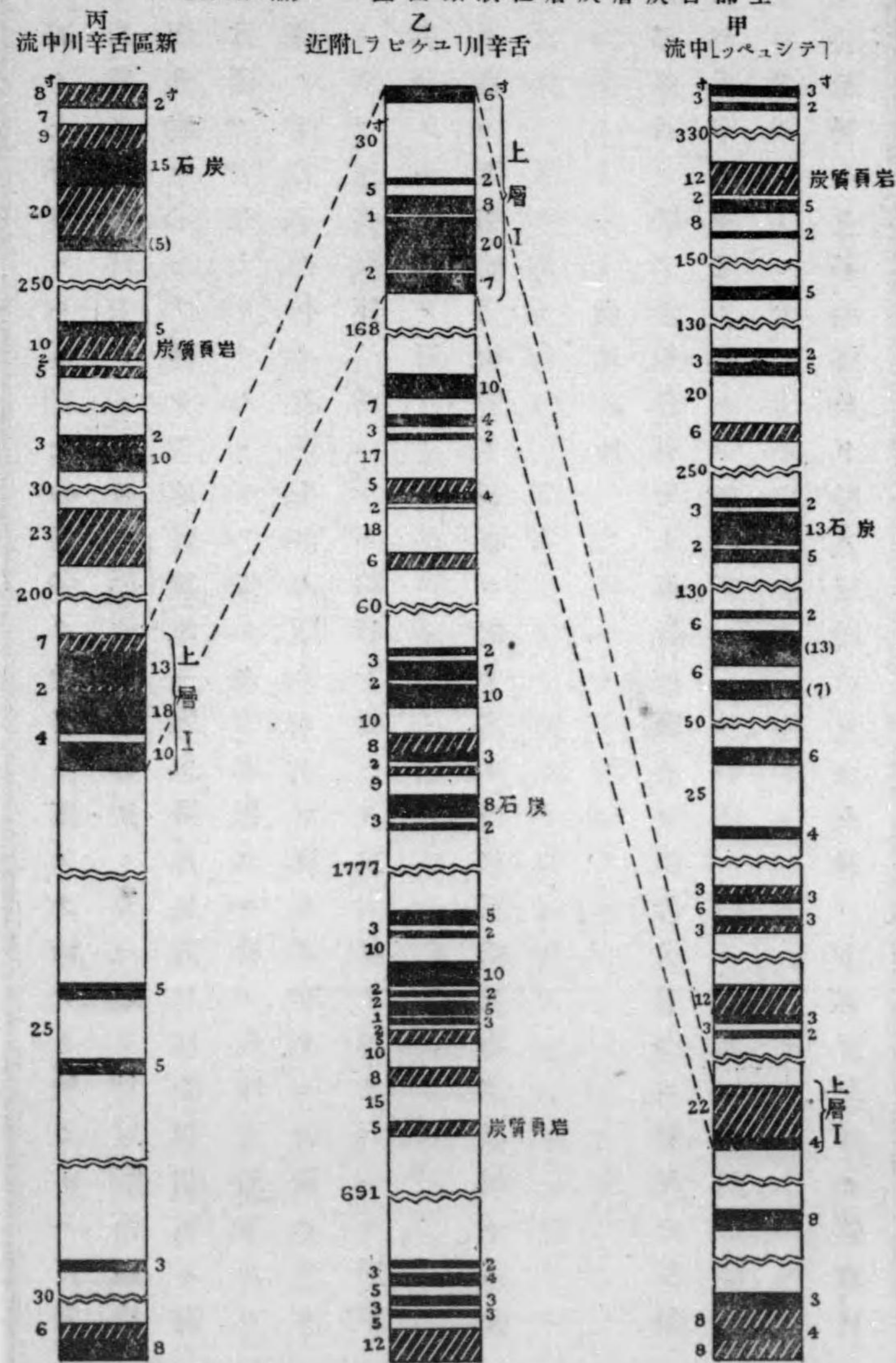
一 南部區域

南部區域ニ於テ主要炭層ハ上部含炭層及中部含炭層中ニ介在シ其頒布ハ舌辛川流域ヲ主トシ東ハ「テシユベ」中流ニ、西ハ新區舌辛川中流ニ達ス。

主要炭層ハ上層、中層及下層ノ三層ニシテ上層ハ上部含炭層ノ砂岩、頁

域區部南 圖三第

(一之分百尺縮) 圖面斷狀柱層炭層炭含部上



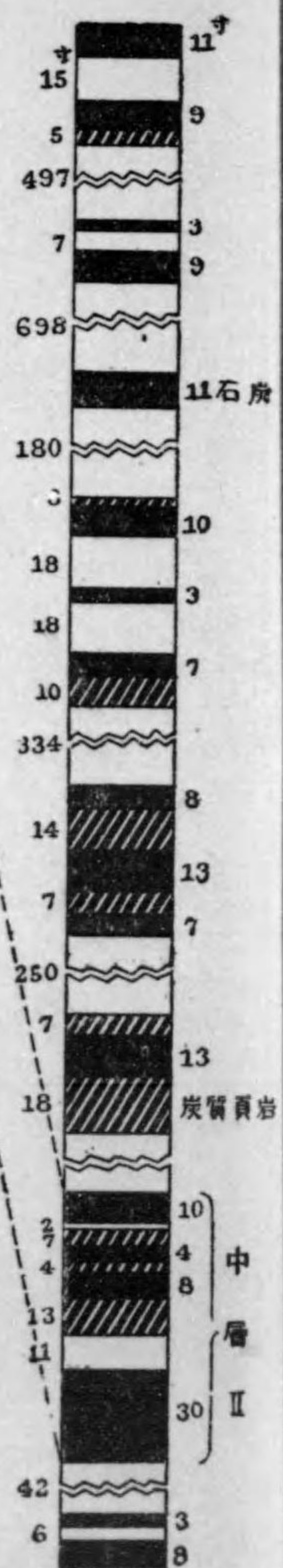
岩層(上部植物化石層)中ニ、中層及下層ハ中部含炭層ノ砂岩、頁岩層(中部植物化石層)中ニ介在ス

上部植物化石層中ニ介在スル炭層ハ第三圖ニ示セルカ如キ累疊ヲナシ其數多キモ稼行ニ堪フルモノハ唯上層アルノミ

上層ハ舌辛川ノ「ユケビラ」(34)ニ起リ其東岸ニ沿ヒ畧北方ヲ指シ奔舌辛川並ニ「テシユベ」支流佐々木澤ヲ越エテ舌辛川上流ニ至リ漸次西方ニ彎曲シ「ベルツナイ」上流ニ至ルニ及ヒ更ニ其層向ヲ南西ニ轉シ新區舌辛川支流鹿澤(56)ニ達シ全延長約十八基米ニ及ヘリ、本炭層ハ舌辛川流域ニ於テハ平均層厚十一尺、炭厚五尺四寸ニシテ採炭厚三尺二寸アリ、新區舌辛川流域ニ於テハ平均層厚八尺、炭厚三尺ニシテ採炭厚一尺八寸アリ、然ルニ「テシユベ」流域ニ於テハ著シク縮迫シ平均層厚四尺、炭厚一尺トナリ採掘ニ堪ヘス

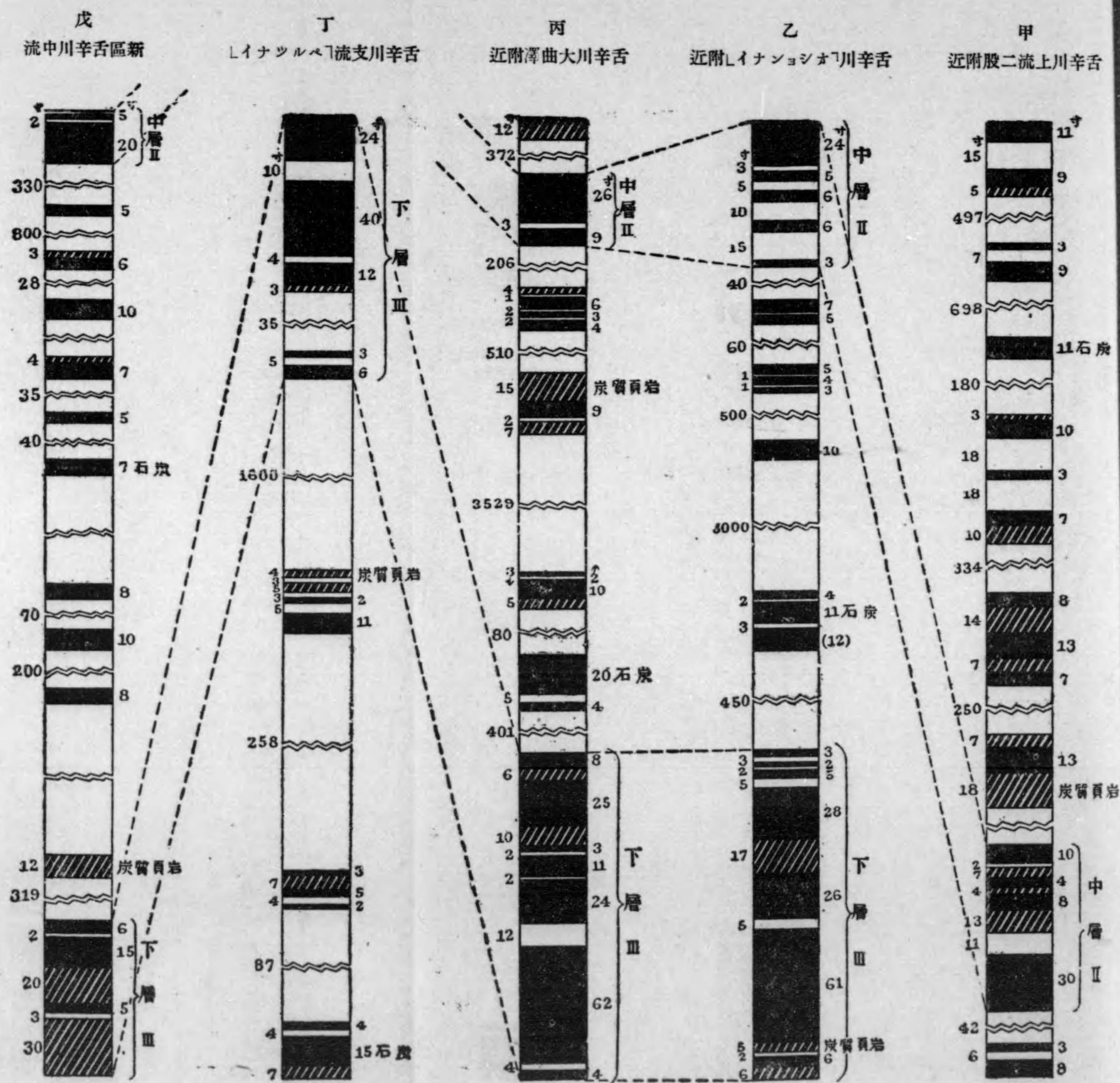
中部植物化石層中ニ介在スル炭層ハ第四圖ニ示セルカ如キ累疊ヲナシ其數極メテ多キモ稼行ニ堪フルモノハ中層及下層ノ二炭層ナリト

甲
近附股二流上川辛舌



中層ハ畧上層ニ並走シ舌辛川ノ「シケレベニオッブウシ」(37)ニ起リ舌辛川及「ベルツナイ」ノ上流地方ヲ經テ新區舌辛川ノ(58)ニ至ル迄之ヲ追跡スルヲ得ヘク全延長約十三基米ニ達ス、本炭層ハ舌辛川流域ニ於テ平均層厚七尺、炭厚四尺ニシテ探炭厚三尺五寸アリ、新區舌辛川流域ニ於テハ縮迫シ平均層厚二尺七寸、炭厚二尺五寸ニシテ探炭厚二尺アリ下層ハ畧中層ニ並走シ舌辛川ノ「シケレベニオッブウシ」(36)ニ起リ舌辛川流域ノ大曲澤(22)(23)(24)「オションナイ」(20)長澤(16)(17)「ベルツナイ」上流(3)ヲ過キ新區舌辛川支流小瀧澤附近(59)(60)(61)(62)(63)ニ至ル迄之ヲ追跡スルヲ得ヘク全延長約十一基米ニ達ス、本炭層ハ北海道東部諸炭田中屈指ノ良炭層ニシテ「オションナイ」(20)ニテハ探炭厚十二尺一寸、大曲澤(23)ニテハ探炭厚十三尺ニ膨大シ概シテ舌辛川流域ニ於テハ平均層厚十二尺、炭厚八尺五寸ニシテ探炭厚七尺七寸アリ、新區舌辛川流域ニ於テハ縮迫シ炭質劣等トナリ平均層厚七尺、炭厚一尺ニシテ探掘ニ堪ヘス

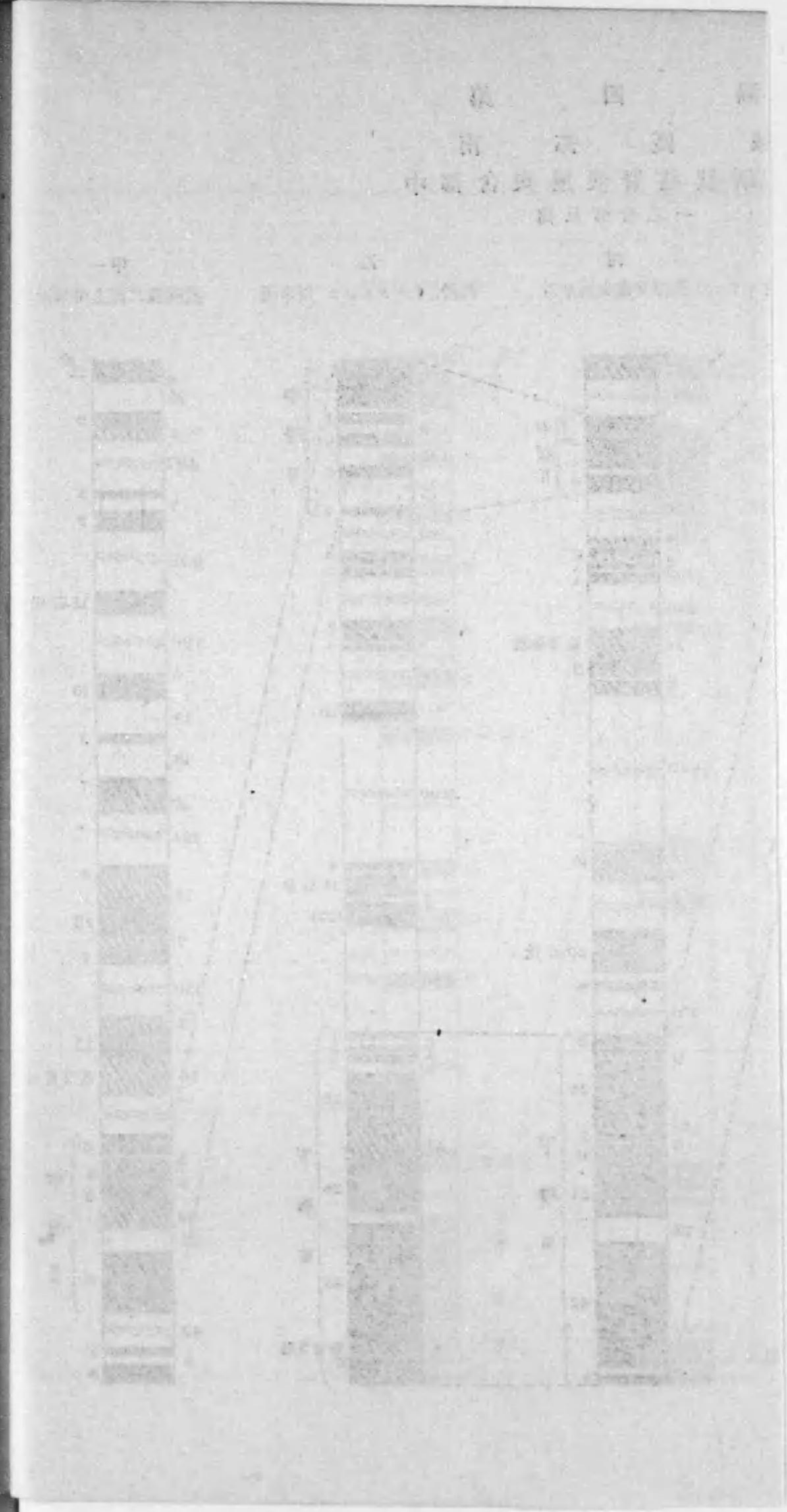
圖 四 第
 域 區 部 南
 圖 面 斷 狀 柱 層 炭 層 炭 含 部 中
 一 之 分 百 尺 縮



中層ハ畧上層ニ並走シ舌辛川ノ「シケレベニオップウシ」(37)ニ起リ舌辛川及「バルツナイ」ノ上流地方ヲ經テ新區舌辛川ノ(58)ニ至ル迄之ヲ追跡スルヲ得ヘク全延長約十三基米ニ達ス、本炭層ハ舌辛川流域ニ於テ平均層厚七尺、炭厚四尺ニシテ探炭厚三尺五寸アリ、新區舌辛川流域ニ於テハ縮迫シ平均層厚二尺七寸、炭厚二尺五寸ニシテ探炭厚二尺アリ、下層ハ畧中層ニ並走シ舌辛川ノ「シケレベニオップウシ」(36)ニ起リ舌辛川流域ノ大曲澤(22)(23)(24)「オシヨシナイ」(20)長澤(16)(17)「バルツナイ」上流(3)ヲ過キ新區舌辛川支流小瀧澤附近(59)(60)(61)(62)(63)ニ至ル迄之ヲ追跡スルヲ得ヘク全延長約十一基米ニ達ス、本炭層ハ北海道東部諸炭田中屈指ノ良炭層ニシテ「オシヨシナイ」(20)ニテハ探炭厚十二尺一寸、大曲澤(23)ニテハ探炭厚十三尺ニ膨大シ概シテ舌辛川流域ニ於テハ平均層厚十二尺、炭厚八尺五寸ニシテ探炭厚七尺七寸アリ、新區舌辛川流域ニ於テハ縮迫シ炭質劣等トナリ平均層厚七尺、炭厚一尺ニシテ探掘ニ堪ヘス

城 流 川 辛 舌									露頭番號
(27)	(26)	(10)	(9)	(8)	(7)	(6)	(5)	(1)	層
十一尺四寸	六尺六寸	八尺二寸	七尺四寸	九尺二寸	十八尺九寸	十三尺四寸	十三尺二寸	十八尺八寸	厚
六尺二寸	三尺一寸	六尺四寸	五尺七寸	四尺七寸	十一尺六寸	六尺二寸	五尺八寸	六尺	炭厚
三尺一寸	一尺七寸	四尺四寸	四尺一寸	二尺	七尺七寸	四尺	四尺	四尺	採炭厚

主要炭層ノ各露頭ニ就キテ其層厚、炭厚及採炭厚ヲ表示セハ左ノ如シ



川 辛 舌						層 中 域				
(22)	(21)	(20)	(17)	(3)	(2)		(37)	(32)	(25)	(19)
十二尺八寸	八尺五寸	十七尺六寸	六尺八寸	九尺三寸	六尺七寸	平均七尺	五尺八寸	四尺七寸	三尺八寸	七尺七寸
八尺五寸	六尺三寸	十三尺一寸	五尺七寸	七尺九寸	一尺九寸	平均四尺	一尺八寸	三尺九寸	三尺五寸	四尺四寸
七尺五寸	六尺三寸	十二尺一寸	五尺七寸	七尺九寸	一尺五寸	平均三尺五寸	一尺三寸	三尺九寸	三尺五寸	二尺九寸

流 川 辛 舌					層 上					
(18)	(15)	(14)	(13)	(12)		(34)	(31)	(29)	(28)	露頭番號
六尺	七尺九寸	四尺九寸	十二尺二寸	八尺九寸	平均十一尺	四尺六寸	十二尺九寸	十二尺五寸	十五尺一寸	層厚
四尺九寸	四尺四寸	二尺八寸	五尺三寸	五尺二寸	平均五尺四寸	三尺九寸	四尺六寸	四尺五寸	五尺五寸	炭厚
四尺九寸	四尺四寸	二尺八寸	四尺	四尺二寸	平均三尺二寸	三尺七寸	三尺二寸		三尺五寸	採炭厚

新區舌辛川流域下層					新區川中層	辛川流域上層				
	(63)	(62)	(61)	(59)	(58)		(55)	(54)	(56)	(53)
平均	七尺八寸	七尺一寸	八尺八寸	五尺二寸	二尺七寸	平均	十四尺三寸	九尺	五尺四寸	四尺八寸
平均	三寸	二尺六寸	一尺	八寸	二尺五寸	平均	二尺三寸	夏炭部ナシ	四尺一寸	三尺三寸
		二尺一寸	一尺		二尺	平均	一尺八寸		四尺一寸	二尺

新區舌			流域下層							露頭番號
(51)	(50)	(49)		(36)	(35)	(33)	(30)	(24)	(23)	
十尺二寸	四尺三寸	七尺五寸	平均	十五尺八寸	十五尺四寸	十尺四寸	十六尺九寸	十二尺二寸	十七尺二寸	層厚
五尺三寸	二尺	五尺一寸	平均	八尺五寸	七尺二寸	八尺三寸	十一尺九寸	十一尺	十三尺七寸	炭厚
二尺七寸	一尺五寸		平均	七尺七寸	六尺二寸	七尺一寸	十尺	十尺	十三尺	探炭厚

III 層 下				II 層 中		I 層 上				
(30)	(23)	(20)	(3)	(25)	(12)	(34)	(31)	(29)	(28)	(27)
六・一〇	五・八一	三・九三	八・八八	四・八八	三・三〇	七・三四	七・三三	三・九〇	八・五〇	七・七〇
四八・六八	四五・八三	四七・七〇	四四・二六	四二・二八	四三・八〇	四〇・二〇	四二・二四	四四・一〇	四〇・三二	三九・一〇
三八・六七	三九・三五	三六・一二	三九・四四	三九・五〇	四四・七四	四二・四六	四二・八八	四一・二〇	四八・六八	五〇・一一
同	粘結セス	粘結セス	同	粘結セス	粘結セス	同	同	同	同	同
六・五五	九・〇一	一二・二五	七・四二	一三・三四	八・一六	一〇・〇〇	七・五五	一〇・八〇	二・六〇	三・〇九
同	同	同	淡褐	淡黝	褐	淡褐	淡黝	同	同	同
〇・二五	〇・五三	〇・二四	〇・三七	三・七六	〇・二一	〇・四八	一・七五	〇・二四	〇・四五	〇・四〇
六・三二五	六・二七〇	六・五四五	五・六一〇	五・八八五	六・六〇〇	五・八八五	六・一六〇	六・一六〇	六・三八〇	六・六〇〇
一・三三三	一・三三七	一・二九三	一・三六八	一・三九六	一・二八九	一・三五一	一・三三一	一・三二八	一・二九七	一・三〇五
〇・七九	〇・八六	〇・七六	〇・八九	〇・九三	一・〇二	一・〇六	一・〇二	〇・九三	一・二一	一・二八

主要炭層ノ石炭ヲ本所分析係ニ於テ分析セシ結果ハ左ノ如シ
 舌辛川流域産石炭分析表

炭層及露頭ノ番號	成			分			發熱量 (カロリー)	比重	燃料比	
	水	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰色硫黄				
(26)	七・〇九	四〇・五二	四九・四九	粘結セス	二・九〇	淡褐	〇・四〇	六・六〇〇	一・三〇〇	一・二二

層上域流「ッペユシテ」					露頭番號	層	厚	炭	厚	採炭	厚
(76)	(75)	(73)	(69)	(69)							
平均	四尺	四尺	二尺	三尺	層	厚	炭	厚	採炭	厚	
平均	四尺	二寸	三寸	二寸	厚	炭	厚	採炭	厚	厚	
平均	四尺	二寸	三寸	二寸	厚	炭	厚	採炭	厚	厚	
平均	四尺	二寸	三寸	二寸	厚	炭	厚	採炭	厚	厚	

炭層及露頭ノ番號	成			分 (百分中)			發熱量 (カロリー)		比重	燃料比
	水	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰色硫	黃	比		
(35)	四〇・八	四四・三五	三九・八八	粘粘結ス	一一・六九	同	〇・五四	六・二七〇	一・三四六	〇・九〇
(36)	六・三五	四〇・五〇	四四・六二	粘粘結ス	八・五三	淡黝	〇・四三	六・一六〇	一・三三一	一・一〇

新區舌辛川流域産石炭分析表

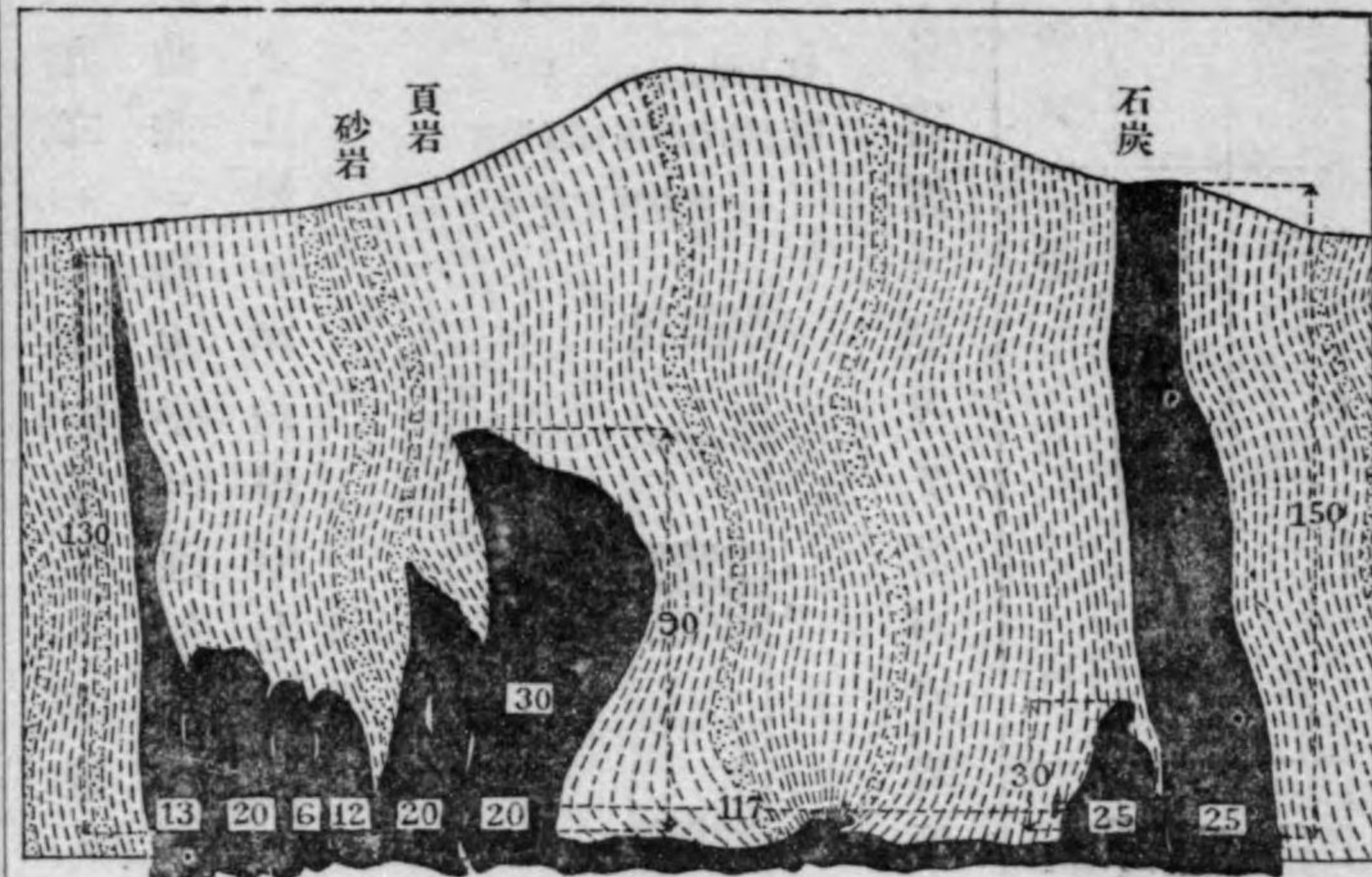
炭層及露頭ノ番號	成			分 (百分中)			發熱量 (カロリー)		比重	燃料比
	水	揮發物	固定炭素	骸炭ノ質	灰	灰色硫	黃	比		
I 層 上										
(49)	八・七〇	三三・四〇	三九・四六	粘粘結ス	八・四四	淡褐	〇・四一	五・〇〇五	一・六二四	一・一八
(53)	五・三一	四三・〇〇	四七・一九	粘粘結ス	四・五〇	同	〇・四〇	六・九三〇	一・三〇三	一・一〇
(57)	五・二五	三二・二六	三二・九四	同	二九・五五	同	〇・二八	四・五六五	一・五三〇	一・〇二

以上舉クルトコロニヨリ之ヲ觀ルニ南部區域中最モ屬望スヘキハ舌辛川流域ニシテ上層ハ平均三尺二寸、中層ハ平均三尺五寸、下層ハ平均

七尺七寸ヲ採炭シ得ヘク之ニ次クハ新區舌辛川流域ニシテ上層ハ平均一尺八寸、中層ハ平均二尺ヲ採炭シ得ヘシテシユベツ流域ニハ採掘ニ堪フヘキ炭層ナシ
 炭量計算ニハ殿來(高距約百米)ヲ通スル水平面ヲ以テ排水準面ト假定シ同水準面以上ト以下千尺迄トニ區別シテ炭量ヲ算出セリ、但シ石炭六尺立方ノ重量ヲ八噸トス、炭量概算左ノ如シ

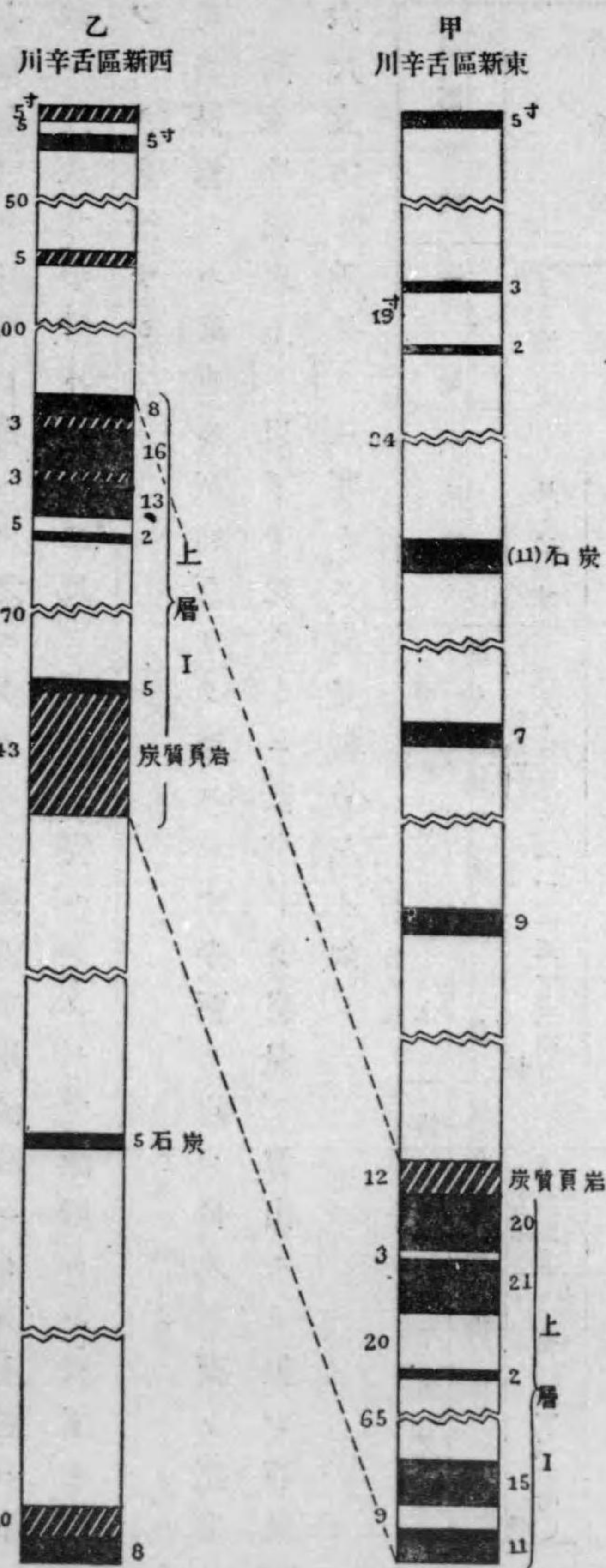
南部區域	炭層			排水準以上		排水準以下千尺迄	
	上層 I	中層 II	下層 III	賦存面積 (平方基米)	炭量 (噸)	賦存面積 (平方基米)	炭量 (噸)
流 舌 辛 川 域	三尺二寸	三尺五寸	七尺七寸	八・六四〇	一一・一五一、三四五	五・四四五	七・〇二七、六七〇
	平均厚サ	七・二〇九	一一・一七六、六九二	一一・二二三	一一・〇〇七	一五・五三八、一九六	三四、八五四、八六七
新 區 舌 辛 川 域	上層 I 一尺八寸	中層 II 三尺五寸	下層 III 七尺七寸	六・二八二	四、五六〇、七二八	—	—
	中層 II 二尺	—	—	一・五六六	一、二六三、二三八	三・七〇八	二、九九一、一一七

圖 六 第
(44)頭露層炭ルケ於ニ川辛舌區新東



スナト位單ヲ寸ハ字數

介在シ其類布ハ西新區舌辛川
東新區舌辛川及「テシュベツ」上流ニ
互レリ
上部植物化石層中ニ介在スル
炭層ハ第五圖ニ示セルカ如キ
累疊ヲナシ其數多キモ主要炭
層ハ上層ニシテ西新區舌辛川
ニテハ(38)ヨリ(43)ニ至ル迄、東新
區舌辛川ニテハ背斜軸ノ兩翼
ニ沿ヒ(44)ヨリ(48)ニ至ル迄之ヲ
追跡スルヲ得ヘシ、而シテ露頭
(44)ノ附近ニ於テハ地層直立セ
リ、第六圖ハ炭層ノ頭露(44)ヲ示
セルモノニシテ地層及炭層ハ



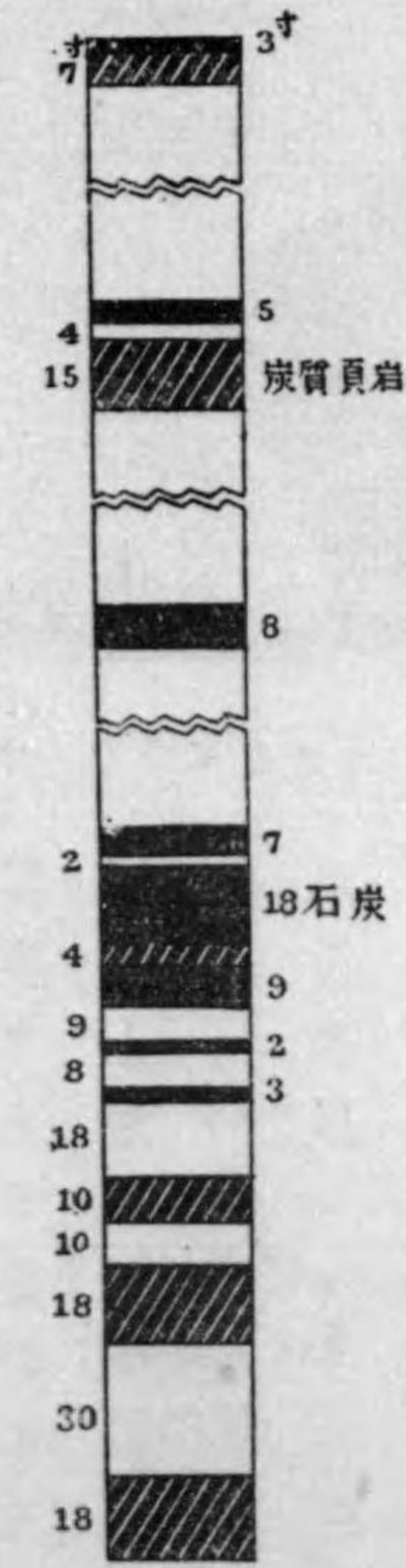
北部區域ニ於テ炭層ハ上部含炭層ノ砂岩、頁岩層(上部植物化石層)中ニ
第五圖 北部區域 上部含炭層炭層柱狀断面圖 縮尺百分之一

合	計	四八、八一四、〇〇九	六〇、四一一、八五〇
---	---	------------	------------

上層ノ石炭ヲ本所分析係ニ於テ分析セシ結果ハ左ノ如シ

	(48)	(47)	(46)	(45)	(44)	(43)	(42)	(41)
平均	四尺七寸	五尺五寸	五尺六寸	五尺五寸	五尺五寸	十尺一寸	七尺八寸	十八尺九寸
平均	三尺四寸	三尺一寸	四尺一寸	四尺一寸	五尺	四尺一寸	四尺一寸	四尺九寸
平均	二尺五寸	一尺六寸	四尺一寸	三尺四寸	五尺	二尺	四尺一寸	三尺五寸

第七圖
北東部區域
「ツベユシテ」上流上部
含炭層柱狀断面圖
縮尺百分之一



上層ノ各露頭ニ就キテ其層厚、炭厚及採炭厚ヲ表示セハ左ノ如シ

(39)	(38)	露頭番號	層	厚	炭	厚	採炭	厚
五尺	四尺六寸							
三尺九寸	三尺七寸							
三尺七寸	三尺七寸							

殆ント直立セル箇處多キモ本圖ノ中央下部ニ見ルカ如キ奇形ナル地層ノ皺曲並ニ略水平ニ連續セルカ如キ炭層ノ狀態ハ未タ之ヲ了解スル能ハス、上層ハ平均層厚七尺、炭厚四尺ヲ有シ平均三尺四寸ヲ採炭シ得ヘシ

炭層及露頭ノ番號	I 層 上				水分 (%)	灰 (%)	灰色	硫黃	發熱量 (カロリー)	比重	燃料比
	(46)	(43)	(42)	(41)							
水	七・一五	四・五〇	三・八〇	三・八二	結核セス	八・八七	淡黝	〇・五三	六、一六〇	一・三二〇	〇・八六
揮發物	四二・九六	四二・九六	四二・九六	四二・九六	同	三・五八	淡褐	〇・二四	六、二七〇	一・三〇四	一・〇五
固定炭素	四二・三〇	四二・三〇	四二・三〇	四二・三〇	同	八・四〇	同	〇・二四	六、一六〇	一・三三二	一・〇四
賦存面積	六・一六五	八、四五四、二六一	八、四五四、二六一	八、四五四、二六一	同	四・七八	同	〇・四五	六、四九〇	一・三〇四	一・〇七
排水準以上	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
排水準以下千尺迄	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

炭量計算ニハ殿來(高距約百米)ヲ通スル平面ヲ以テ排水準面ト假定シ同水準以上ト以下千尺迄トニ區別シテ炭量ヲ算出セリ、但シ石炭六尺立方ノ重量ヲ八噸トス、炭量概算左ノ如シ

炭層	平均厚サ	排水準以上		排水準以下千尺迄	
		賦存面積	炭量	賦存面積	炭量
上層 I	三尺四寸	六・一六五	八、四五四、二六一	八・三七〇	一一、四七八、〇四八

第七章 結論

釧路國ハ十勝國ノ一部ト共ニ北海道東部ニ於ケル唯一ノ産炭地ニシテ東部ニ釧路炭田、西部ニ浦幌炭田、中部ニ白糖、庶路炭田及舌辛炭田、北部ニ阿寒炭田アリ、是等諸炭田ニ於ケル炭層ハ之ヲ夕張及空知炭田ノ稼行炭層ニ比スレハ菲薄ニシテ炭質亦良好ナラサルモ其位置海岸ニ近ク運搬至便ニ、且炭層ノ傾斜極メテ緩ニシテ採炭容易ナル釧路炭田、白糖、庶路炭田及舌辛炭田ハ既ニ開發セラレタリ、即チ釧路炭田ニ於テ二十年來繼續シテ採炭厚二尺五寸乃至四尺ノ炭層ヲ稼行シ時ニ一尺餘ノ炭層ヲモ採炭モシコトアリ、歐洲戰亂ノ勃發後炭價暴騰ノ結果此菲薄ノ炭層ヲモ稼行シ得ルニ至レリ、又白糖、庶路炭田及舌辛炭田ニ於テハ從來採炭厚二尺内外ノ炭層ヲ稼行セリ、浦幌炭田ハ釧路港ヲ距ル遠キヲ以テ數炭層ヲ埋藏セルニモ拘ハラズ未タ開發セラル、ニ至ラズ

阿寒炭田ハ海岸ヲ距ル遠ク從來交通不便ノ地ナリシヲ以テ世人ハ奔

六二

舌辛ノ北方「オシオンナイ」ニ炭層ノ存在スルヲ知レルモ眞ニ其賦存ノ状態ヲ探究スルコトナク隨テ未タ企業ノ機運ニ際會セサリシナリ、本炭田ハ既述ノ如ク數多ノ炭層ヲ埋藏スルモ平均厚サ二尺以上七尺七寸ヲ探炭シ得ルハ上層(I)、中層(II)及下層(III)ノ三炭層ナリ、其石炭ハ黑色ニシテ樹脂光澤ヲ有シ斷口多クハ參差狀若クハ貝殼狀ヲ呈ス、本所分析係ニ於テ施行シタル分析ノ結果ヲ見ルニ石炭ハ不粘結性ニシテ稀ニ稍粘結スルモノアリ、揮發物ハ百分中四十内外ニシテ概シテ燃料比一内外、風乾試料ニ於ケル水分百分中六或ハ七ナルモノ多ク黑褐炭ニ近キ低度瀝青炭ニ屬ス、其用途ハ蒸氣機關ノ燃料タルニ適ス

本炭田中屬望スヘキハ南部區域ノ舌辛川流域ニシテ平均上層ハ三尺二寸、中層ハ三尺五寸、下層ハ七尺七寸ヲ探炭シ得ヘク新區舌辛川流域ニ於テハ平均上層ハ一尺八寸、中層ハ二尺ヲ探炭シ得ヘシ、而シテ南部區域ノ炭量ハ排水準以上約四千八百八十一萬噸、同水準以下千尺迄約六千四十一萬噸ナリ、假リニ其四割ヲ探炭上ノ損耗トナスモ尙六千五

百五十三萬噸ヲ探掘シ得ヘキナリ

北部區域ニ現出セル主要炭層ハ上層ノミニシテ平均三尺四寸ヲ探炭シ得ヘク其炭量ハ排水準以上約八百四十五萬噸、同水準以下千尺迄約一千四百四十八萬噸ニシテ探炭上ノ損耗ヲ除去スルモ尙一千百九十六萬噸ノ實收アリ、加之北部區域ニ現出セル含炭層ハ南部區域ノ上部含炭層ニ屬スル砂岩、頁岩層(上部植物化石層)ニ該當スルヲ以テ其下位ニ中部含炭層及下部含炭層ノ伏在スヘキヲ推スヘキナリ、而シテ南部區域ノ含炭層中屬望スヘキハ中部含炭層即チ砂岩、頁岩層(中部植物化石層)ニシテ中層及下層ノ主要炭層ヲ介有セリ、隨テ北部區域ノ地下深處ニ於テ中部含炭層中ニ介在セル中層及下層ノ二炭層ノ賦存スヘキヲ想フモノナリ、而シテ北部區域ニ於ケル是等兩炭層ノ南部區域ニ於ケルカ如ク稼行ニ堪フヘキモノナルヤ否ヤ之ヲ判定スルノ資料ナシ、宜シク試錐ニヨリ地下是等ノ主要ナル二炭層賦存ノ状態并ニ深サ、厚サ、炭質ヲ檢スルヲ要ス

六三

本炭田ノ主要炭層ハ釧路炭田ノ炭層ニ比シ概シテ炭質相匹敵シ而カ
 モ層厚遙ニ大ナル下層(II)アリテ舌辛川流域ニテハ七尺餘ヲ採炭シ得
 ルノ望アリ加之本炭田ハ排水準以上ノ炭量多ク隨テ採炭上ノ利便尠
 ナカラサルモ炭層ノ厚サ及炭質ノ變化著シク傾斜稍急ナルノ憾ミア
 リ
 本炭田ノ奔舌辛ハ舌辛原野ノ終點殿來ヲ距ル一里十四町ニシテ舌辛
 市街地ヲ距ル四里十七町ニ位シ河岸ニハ廣キ平地ノ存スルアルヲ以
 テ車道開鑿ノ如キ至難ノ業ニアラサルヘク又近時頓ニ發展シツ、ア
 ル釧路國ニ於ケル鑛業ノ趨勢ニ鑑ミ本炭田ノ開發ハ蓋シ遠キニアラ
 サルヘシ

大正七年十月三日印刷
 大正七年十月七日發行

著作權所有

農 務 省

印刷者 吾 妻 菊 三 郎
東京市神田區通新石町三番地

印刷所 陽 堂
東京市神田區通新石町三番地

發賣所 東 堂
東京市神田區通新石町三番地

電話 本局九二九番
 振替口座東京二三四三六番

地質調查所新刊圖書

地質調查所報告第六十號 (大正五年九月刊)

定價金五拾參錢

磷酸重量分析報文
花崗岩凍寒試驗報文

清水技師
清水技師

同

上第六十一號 (大正六年三月刊)

定價金壹圓貳拾五錢

加奈太西海岸及南東亞刺斯加特二
「ヤクタト」海及「グレンシア」海

(附圖十三葉)

井上所長

同

上第六十二號 (大正六年三月刊)

定價金壹圓

青森縣下北郡川内村地下水調査報文
青森縣弘前市地下水調査報文
福島縣福島市地下水調査報文
福島縣須賀川町地下水調査報文
新潟縣高田市地下水調査報文
滋賀縣地下水調査報文

小林技師
小林技師
小林技師
渡邊技師
渡邊技師
渡邊技師

同

上第六十三號 (大正六年九月刊)

定價金貳圓貳拾錢

福井縣三方湖地質及湧水調査報文 (附圖一葉)
富士四近水理調査報文 (附圖八葉)
青森縣八戸町地下水調査報文
青森縣三本木町附近地下水調査報文
大坂府管内地下水調査報文

渡邊技師
井上技師
門倉技師
門倉技師
鈴木囃託

發賣所

東陽堂 會社

東京市神田區通新石町

地質調查所新刊圖書

同	同上	說	明	書	同	木	同	新	同	平	同	金
大日本中部 大日本西部 大日本西南部	大日本中部 大日本西部 大日本西南部	地形圖 地形圖 地形圖	地質圖 地質圖 地質圖	全五部內 全五部內 全五部內	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

發 賣 所

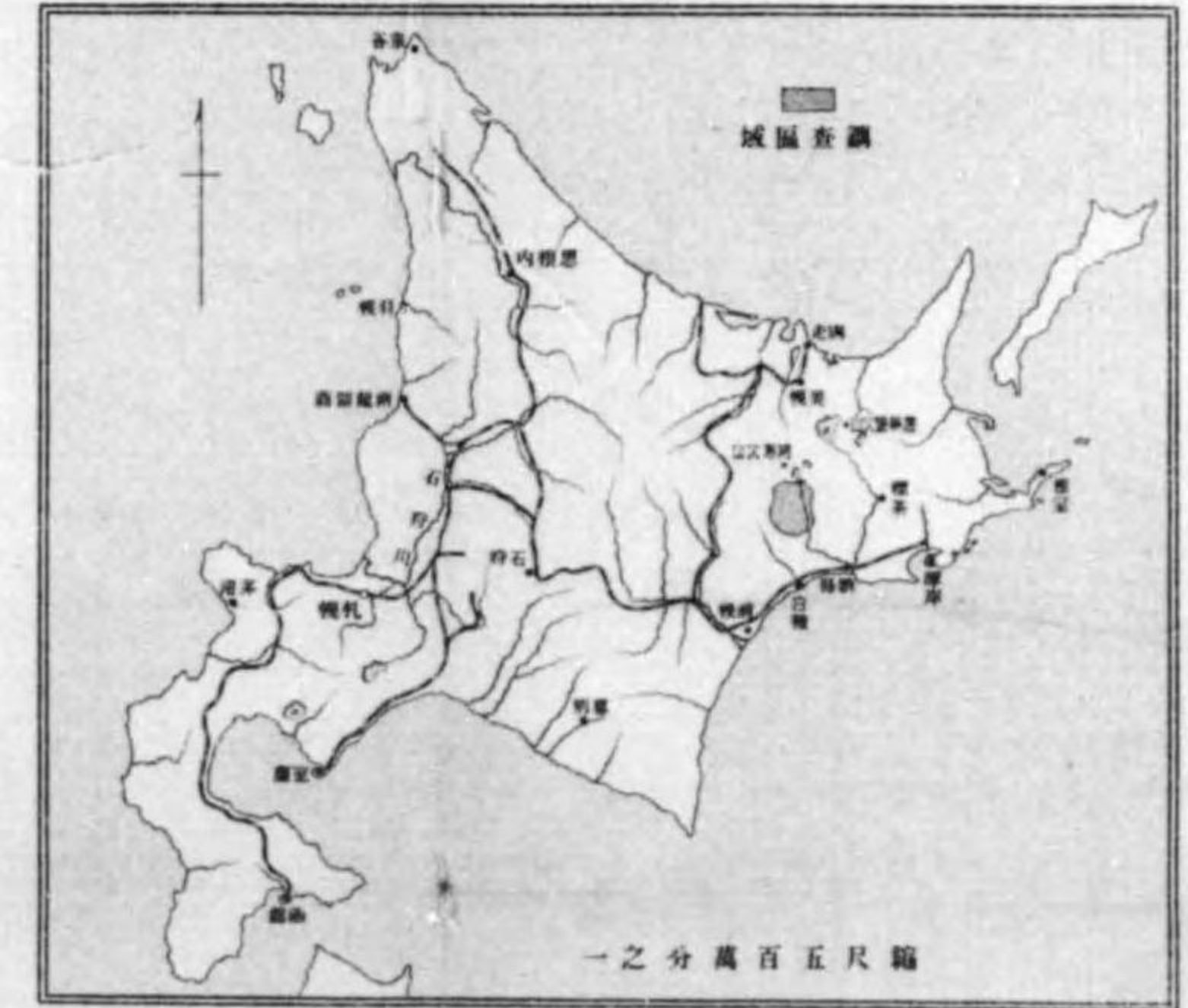
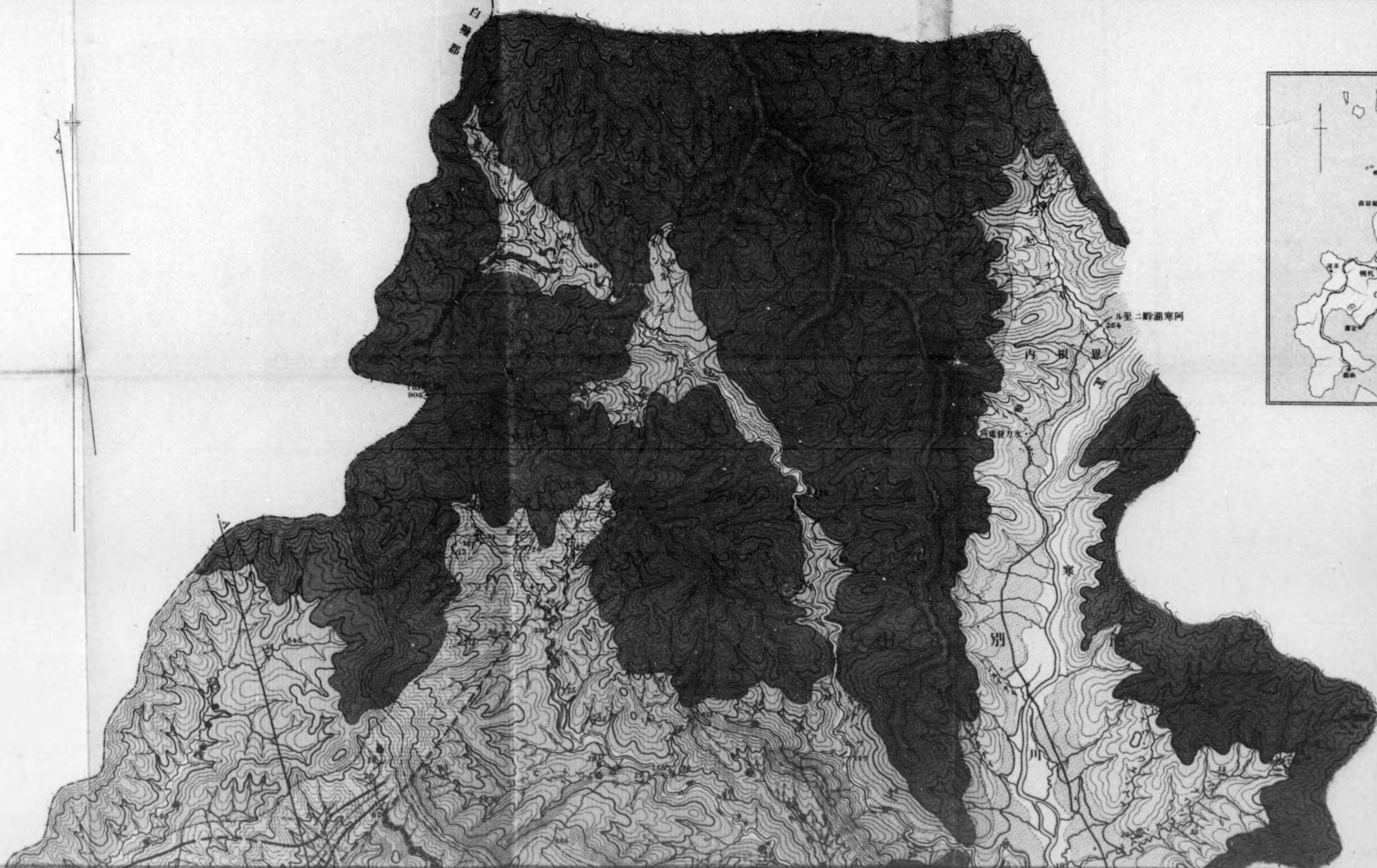
會 社
東 陽 堂
東 京 市 神 田 區 通 新 石 町

鑛物調查報告第二十七號附圖

- 第一版 釧路國阿寒炭田地質圖
第二版 釧路國阿寒炭田炭層柱狀圖

圖質地田炭寒阿國路釧

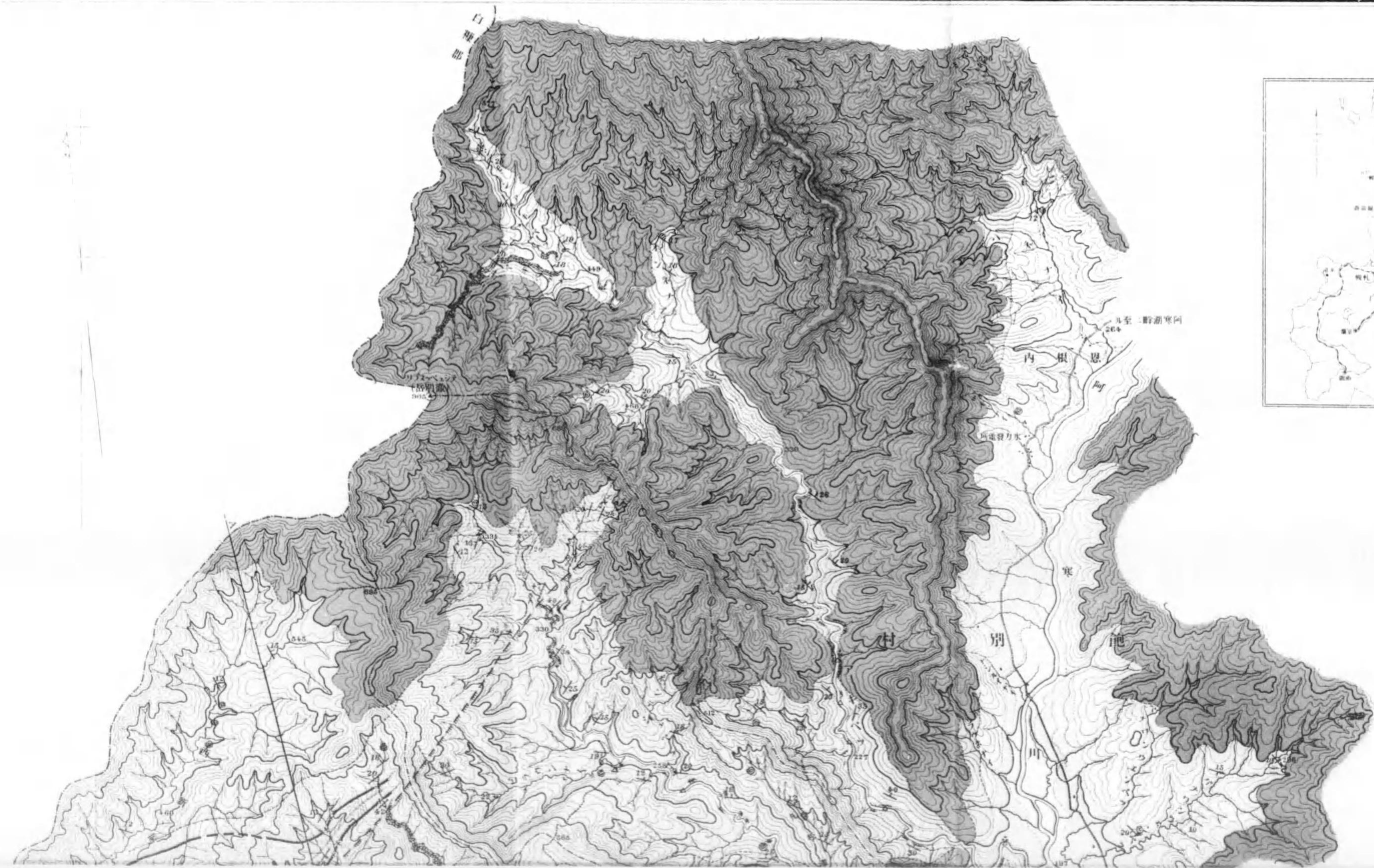
第一版



- 炭層露頭及書號
- I 主要炭層書號
- III 地質斷面線
- 動物化石
- × 植物化石
- △ 冷 泉
- ↗ 層向及傾斜
數字、傾斜角、方向
- ⊥ 直 立 層
- ⊥ 水 平 層
- ⊥ 背 斜 軸
- 斷 層
(普通、地層下、方向、正、反)

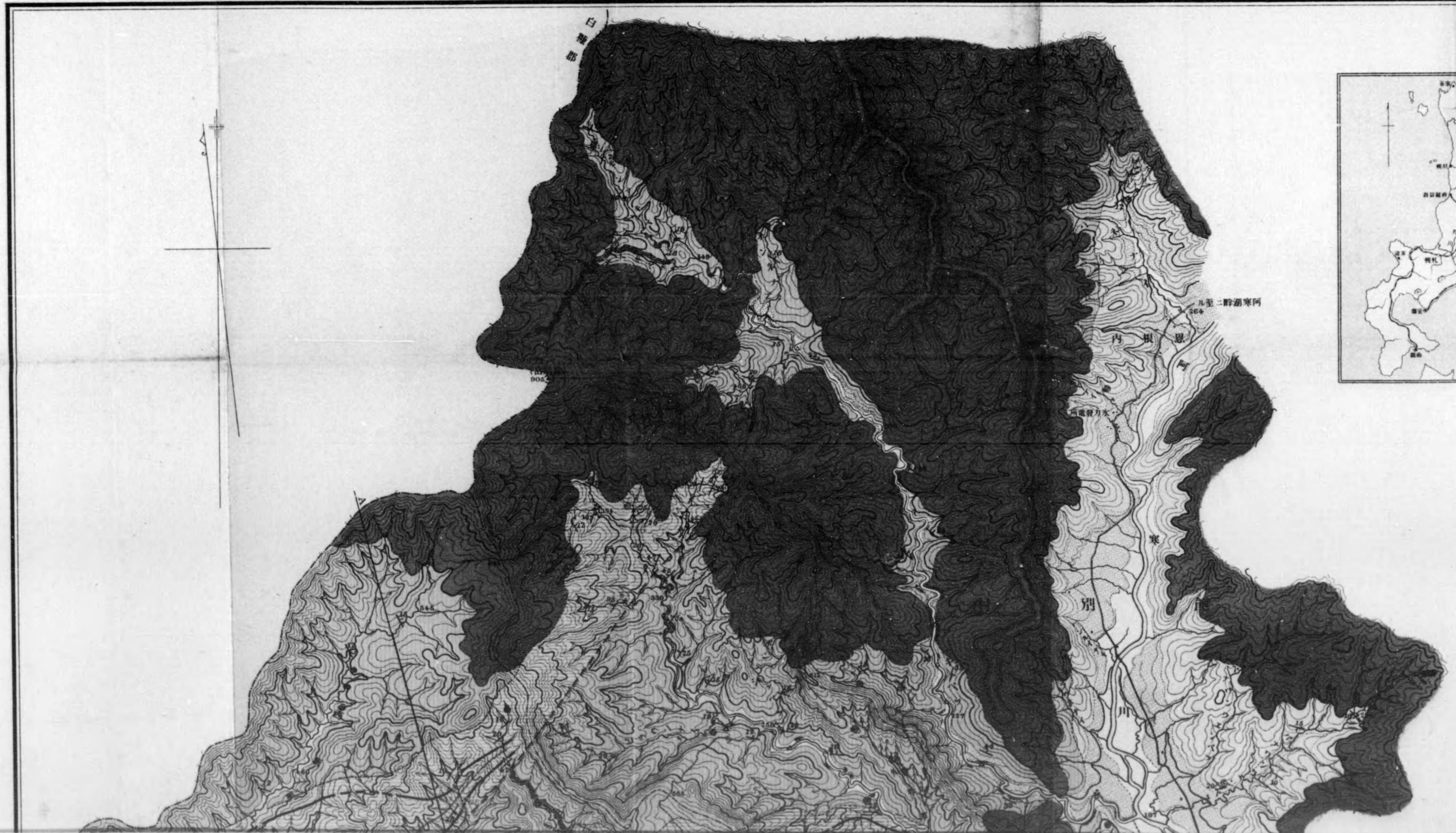
61234567891012345

圖質地田炭寒阿國路釧

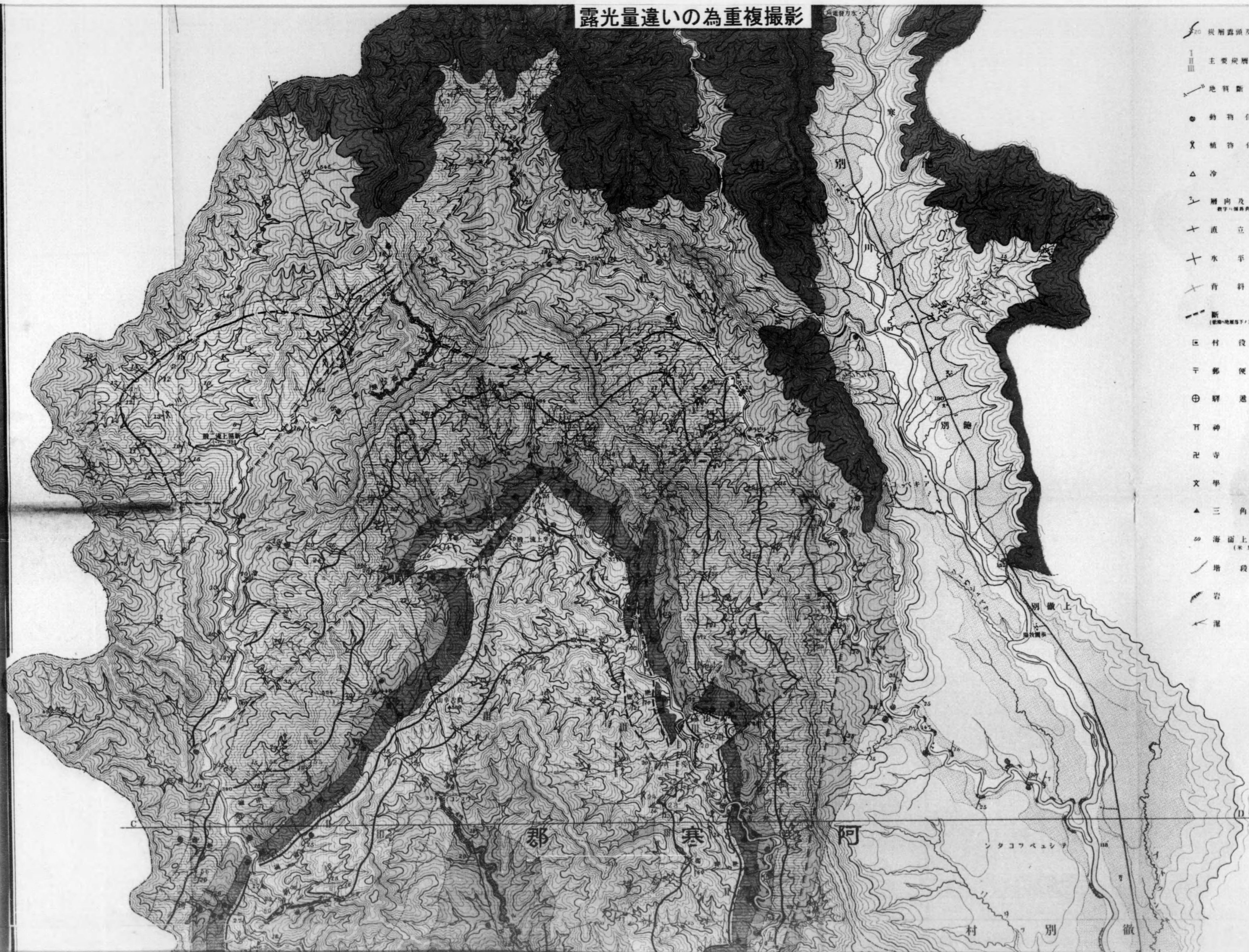


- 採石場
- △ 砂 塚
- ▽ 橋 梁
- 直 道
- 平 路
- 自 然 路
- 斷 崖

圖質地田炭寒阿國路釧



露光量違いの為重複撮影



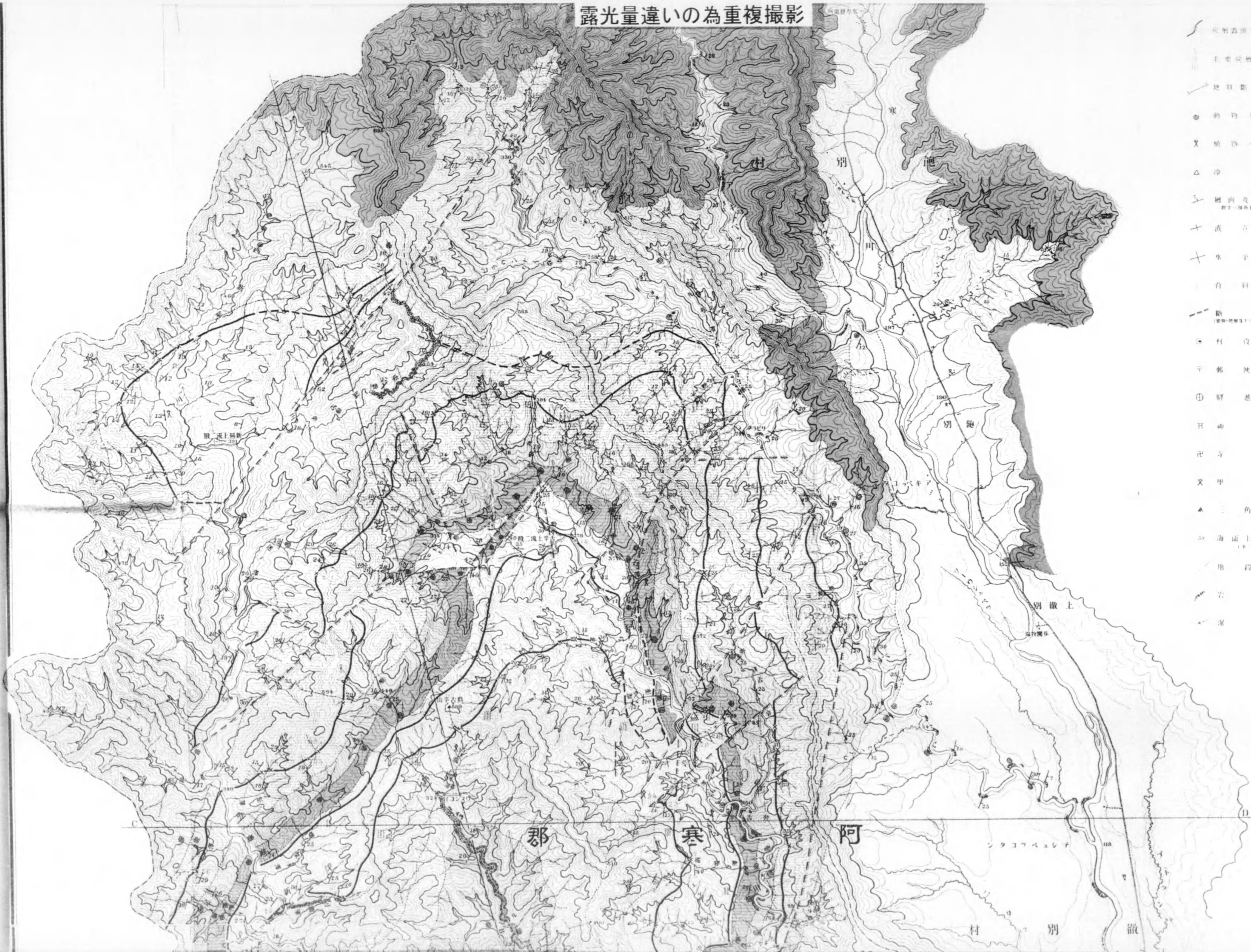
- 20 規層露頭及畫號
- I 主要規層畫號
- III
- ↗ 地質斷面線
- 動物化石
- × 植物化石
- △ 冷 泉
- ↖ 層向及傾斜
數字は傾斜角の度
- ⊕ 直立層
- ⊕ 水平層
- ⊕ 背斜軸
- 斷 層
(断面は地層下方向を示す)
- 村 役 場
- 〒 郵 便 局
- ⊕ 驛 邊 所
- 卍 神 社
- 卍 寺 院
- 文 學 校
- ▲ 三 角 點
- 50 海 面 上 高 距
(米 尺)
- ↗ 階 段 地
- ↖ 岩 崖 布
- ↖ 瀑 布

阿 寒 郡

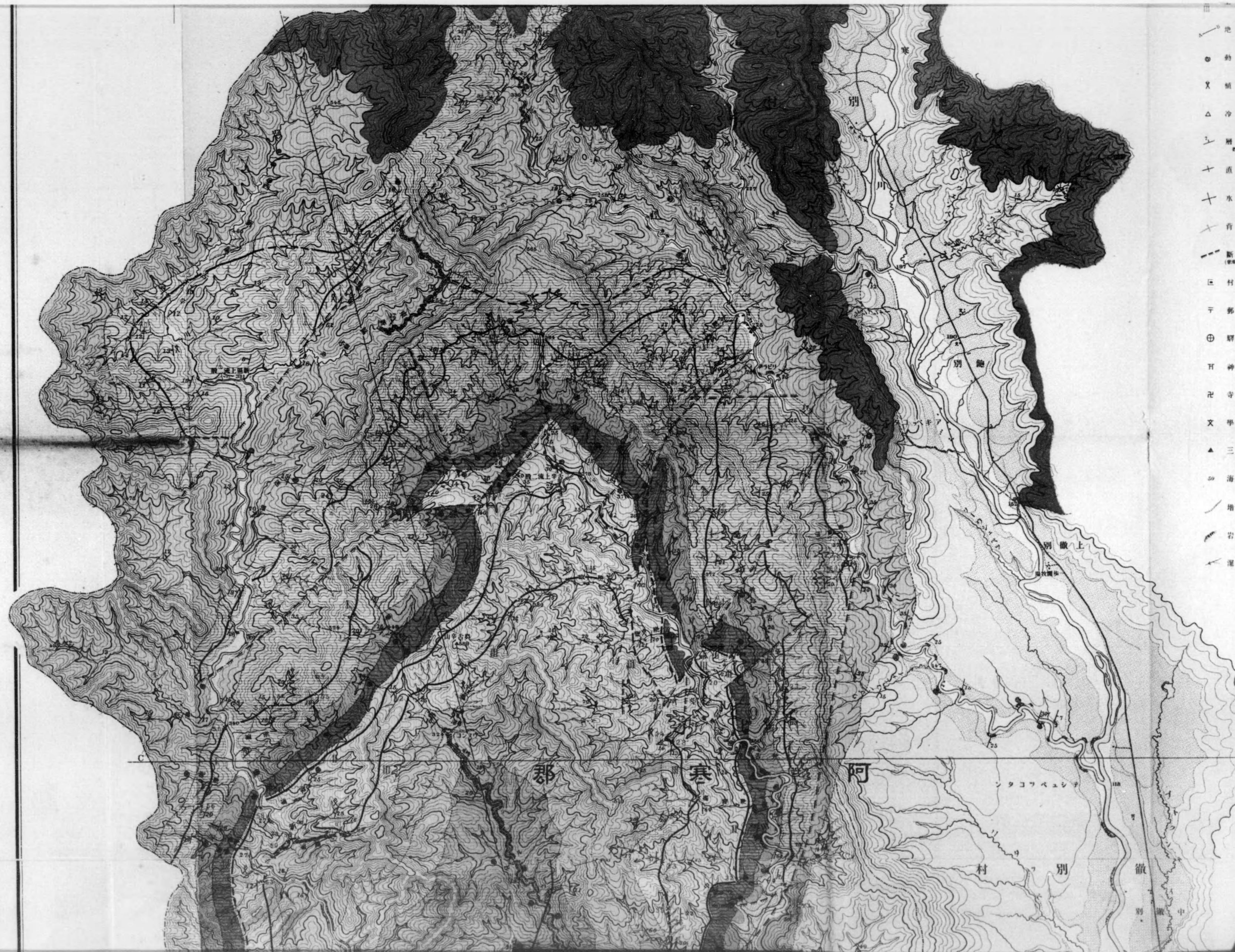
別 館 村

シタコフベシテ

露光量違いの為重複撮影

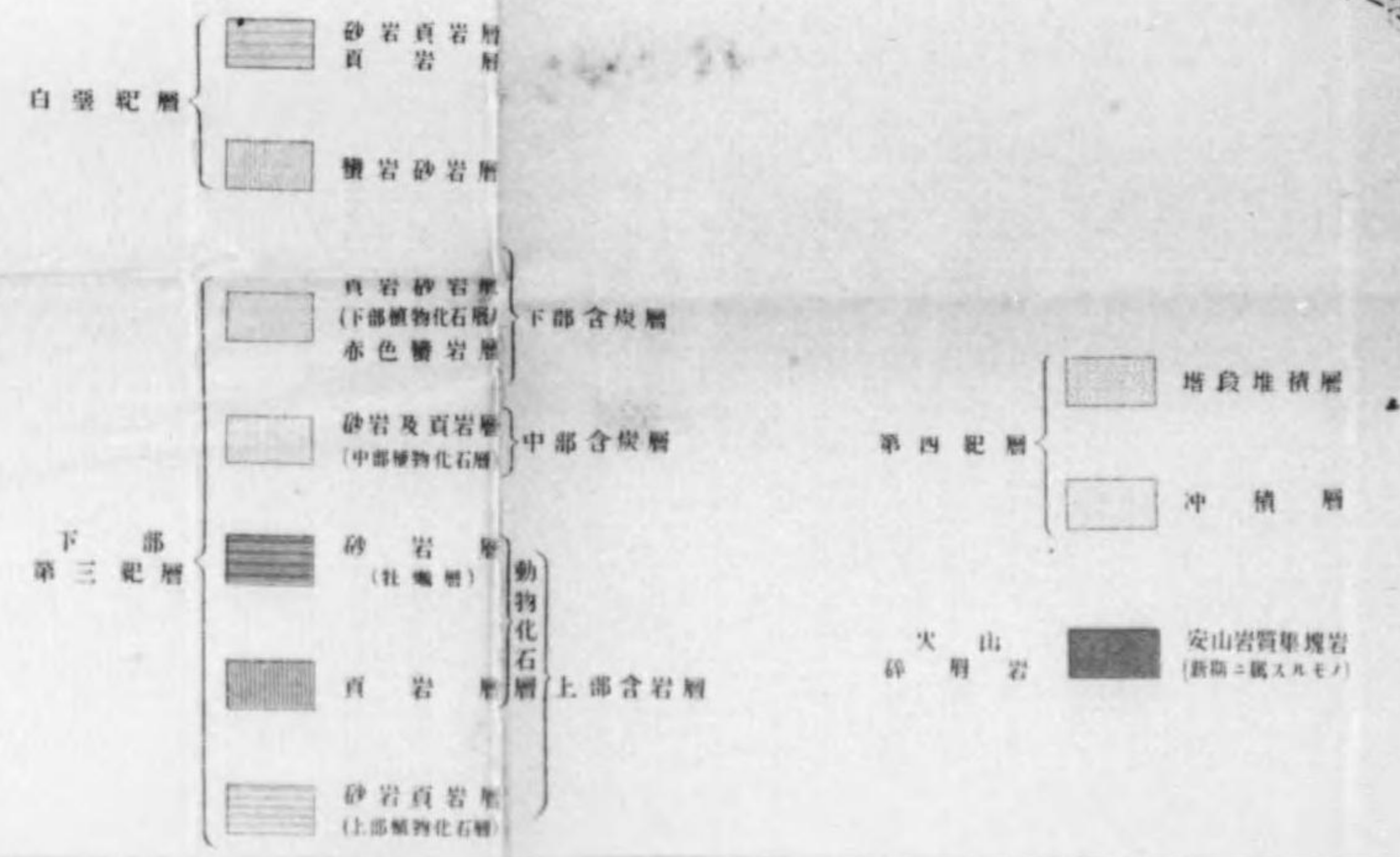


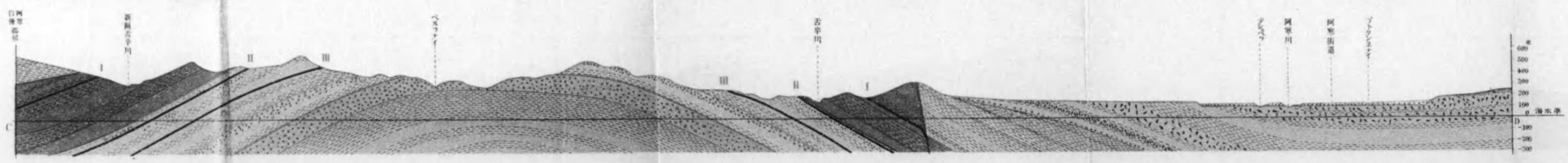
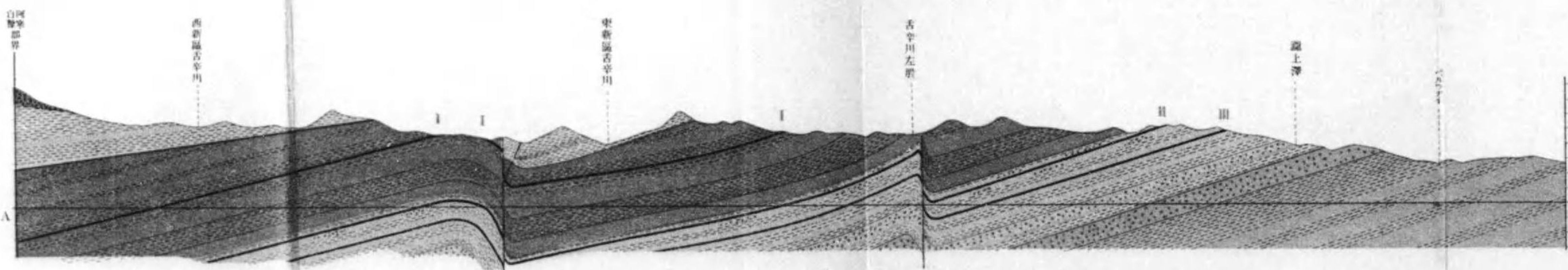
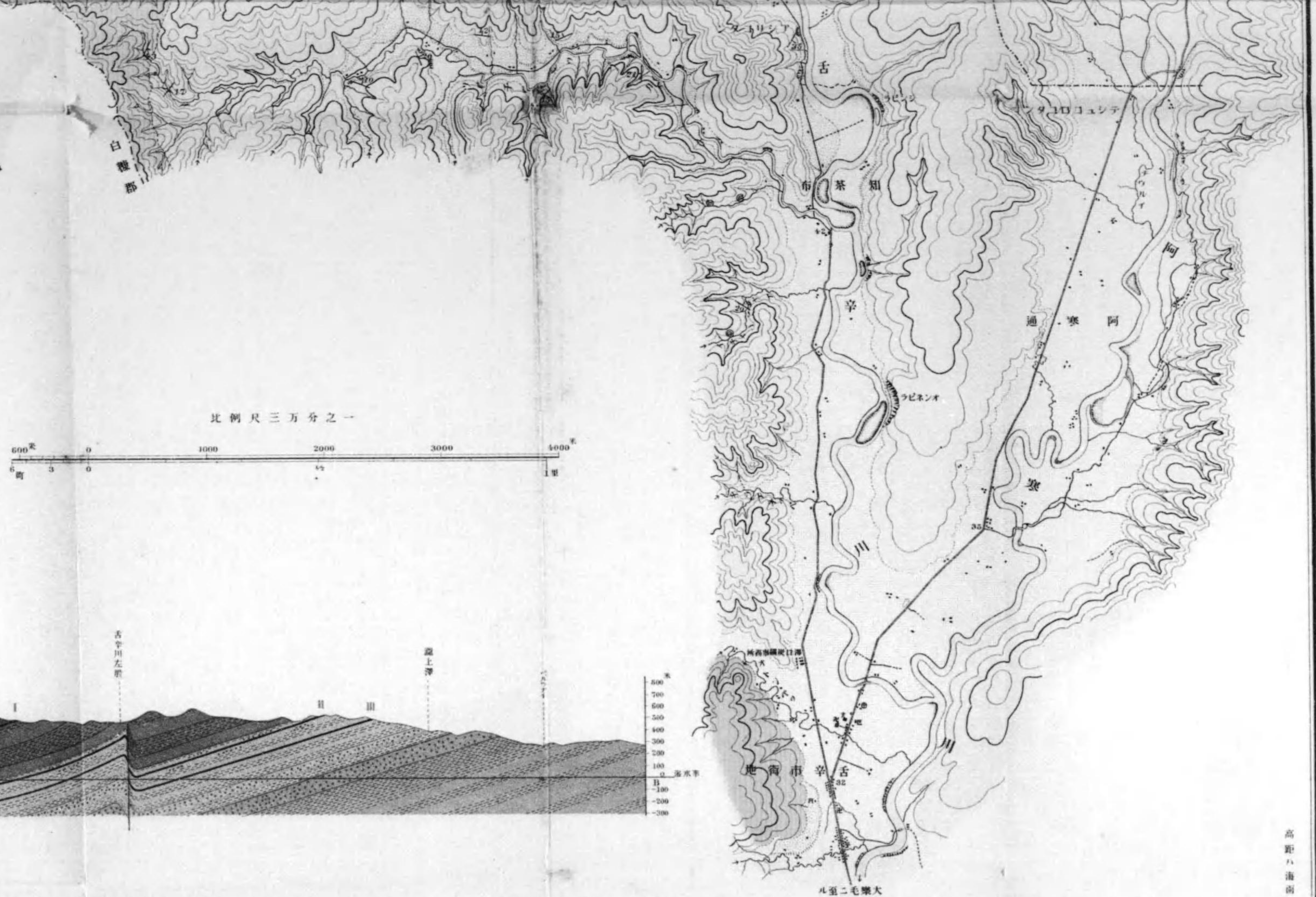
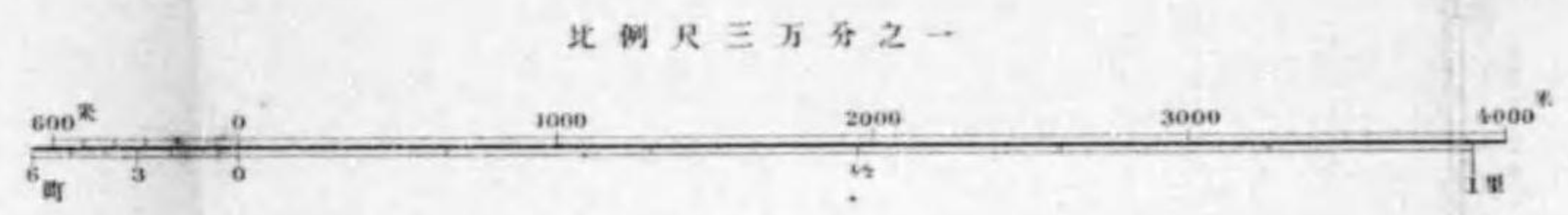
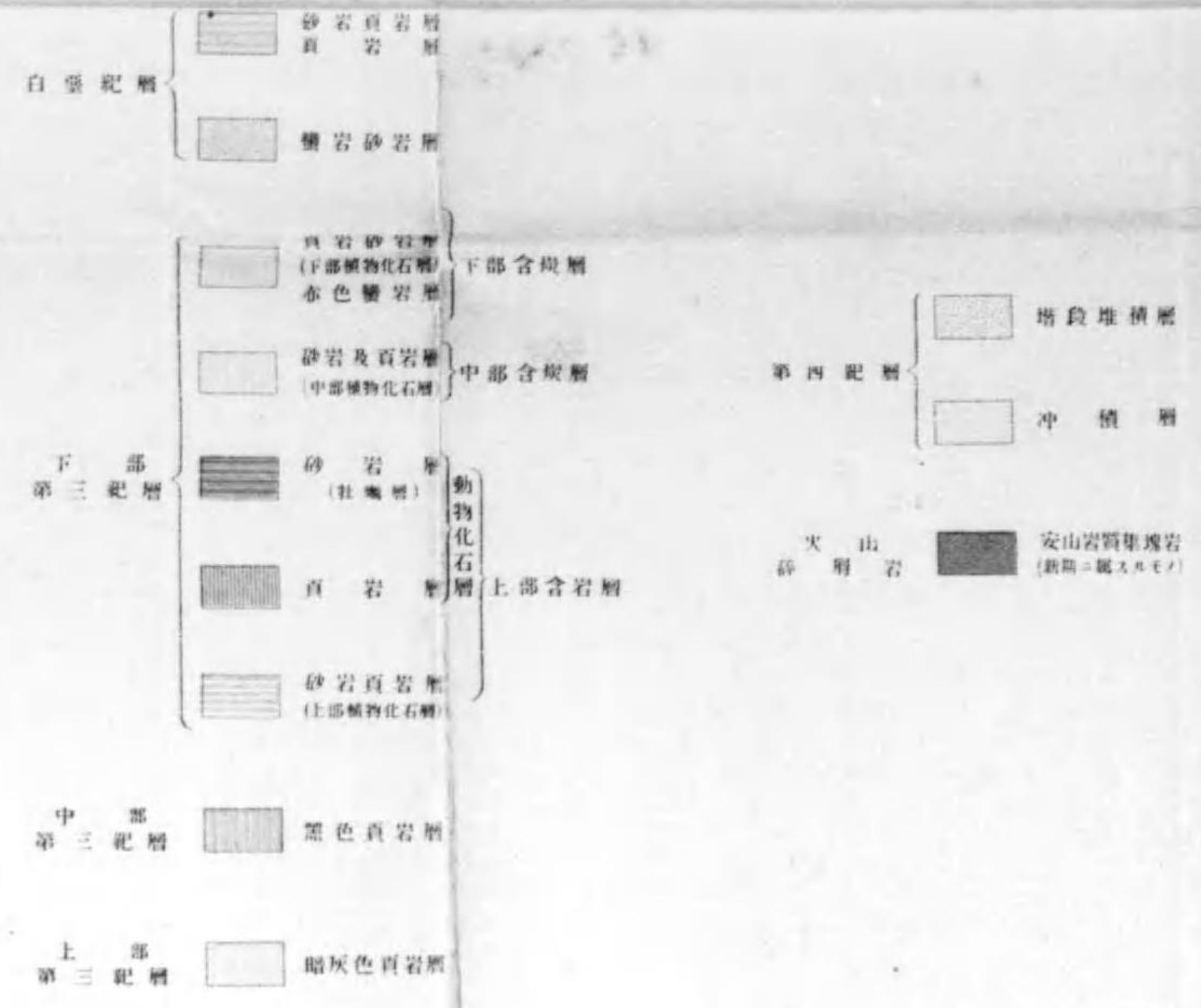
- 別館村
- 主要別館村
- 地籍調査線
- 砂物化石
- × 噴物化石
- △ 冷家
- △ 湖向及湖跡
- △ 直立岩
- △ 水干岩
- 青石地
- 断層
- 村役場
- 郵便局
- 野邊地
- 神社
- 寺
- 学校
- 三角點
- 海面上高點
- 地盤地
- 岩崖
- 瀑布



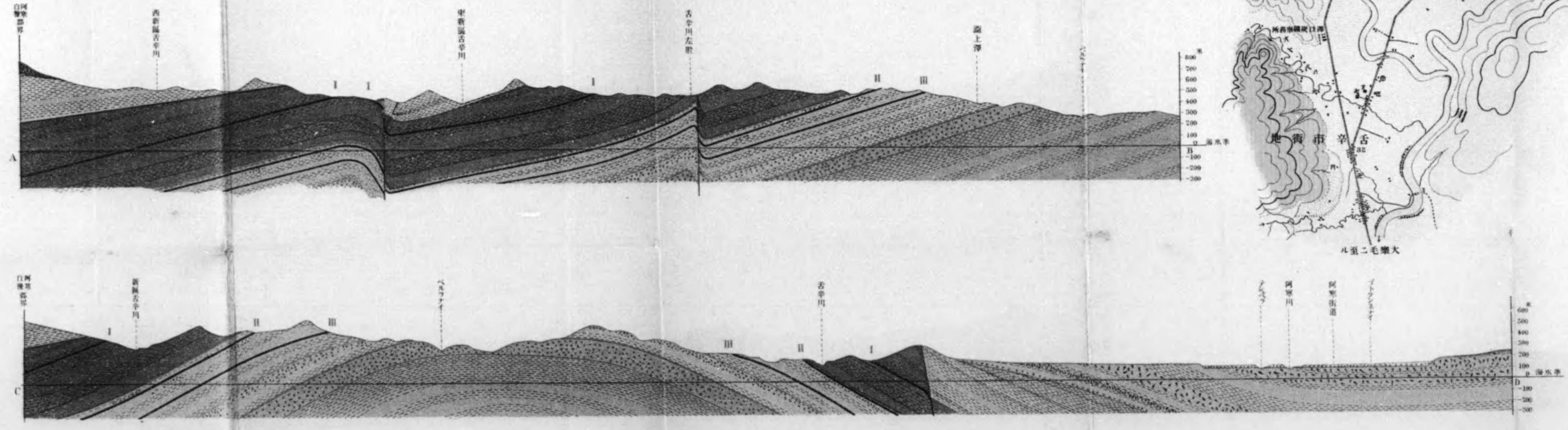
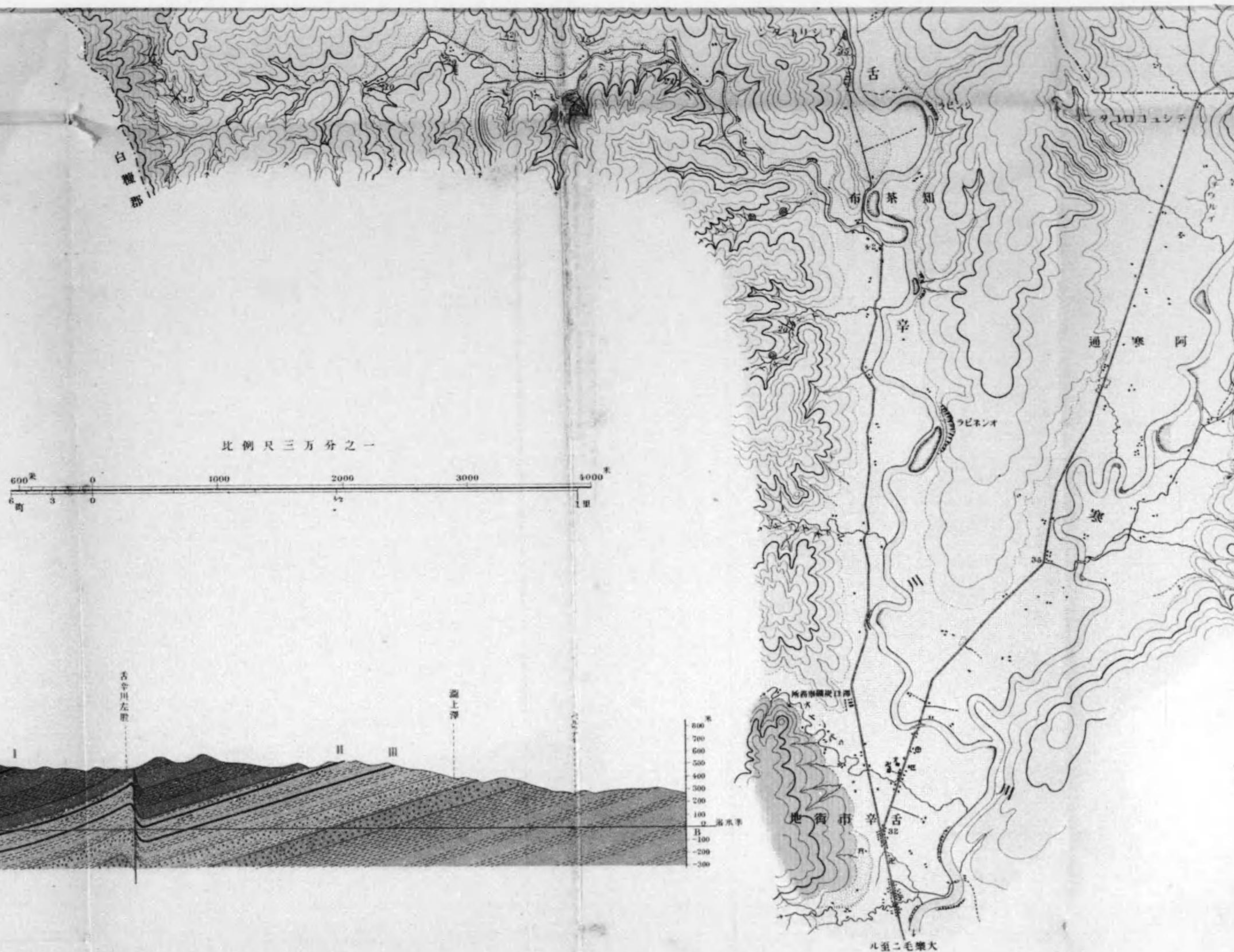
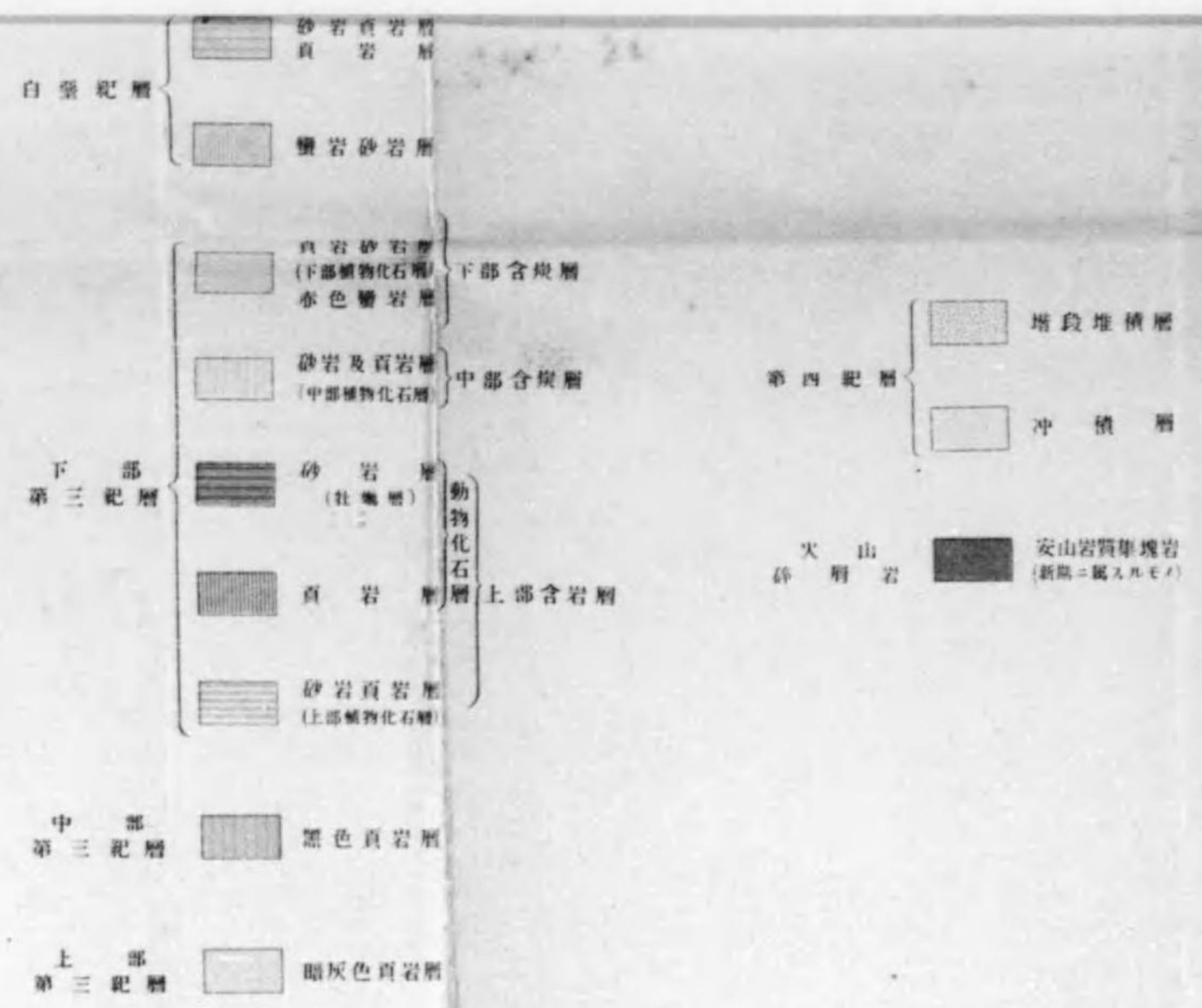


- | | | | |
|------|--|-----------------|-------|
| 白堊紀層 | | 砂岩頁岩層 | |
| | | 頁岩層 | |
| | | 礫岩砂岩層 | |
| 下部 | | 砂岩砂岩層 | 下部含炭層 |
| 第三紀層 | | (下部植物化石層) 赤色礫岩層 | |
| | | 砂岩及頁岩層 | 中部含炭層 |
| | | (中部植物化石層) | |
| | | 砂岩層 | 動物化石層 |
| | | (牡蠣層) | |
| | | 頁岩層 | 上部含炭層 |
| | | | |
| | | 砂岩頁岩層 | |
| | | (上部植物化石層) | |
| 第四紀層 | | 堆積地積層 | |
| | | 沖積層 | |
| 火山 | | 安山岩質噴出岩 | |
| 蘇岩 | | (新期=黒スルモ) | |



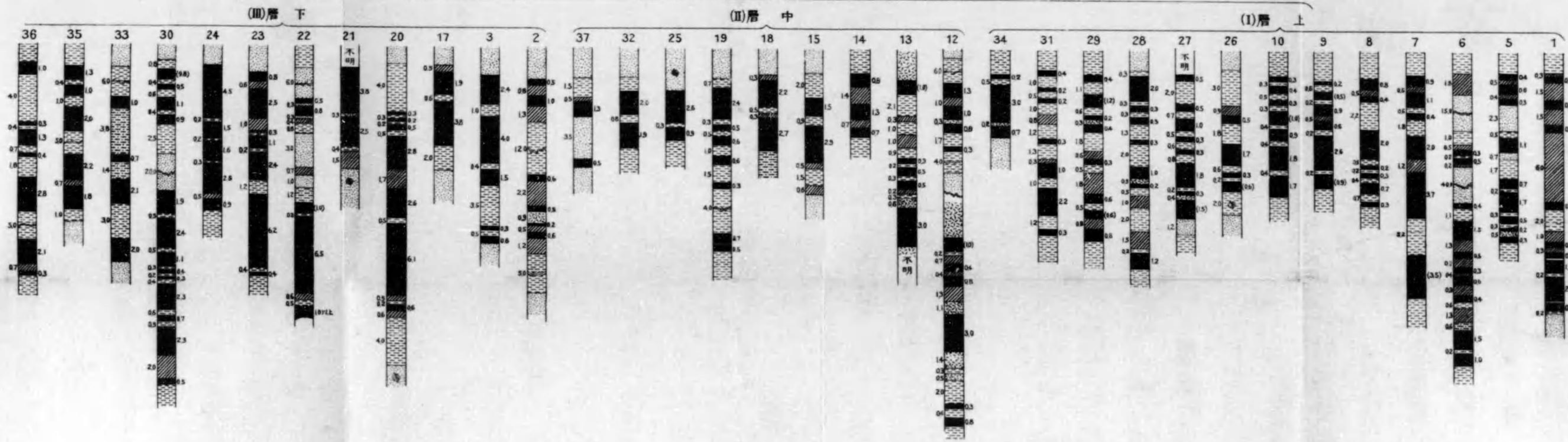


高距ハ海面上一二十米突毎二一標ヲ積テ



圖面斷狀柱層炭田炭寒阿國路釧

域流川辛舌 域區部南



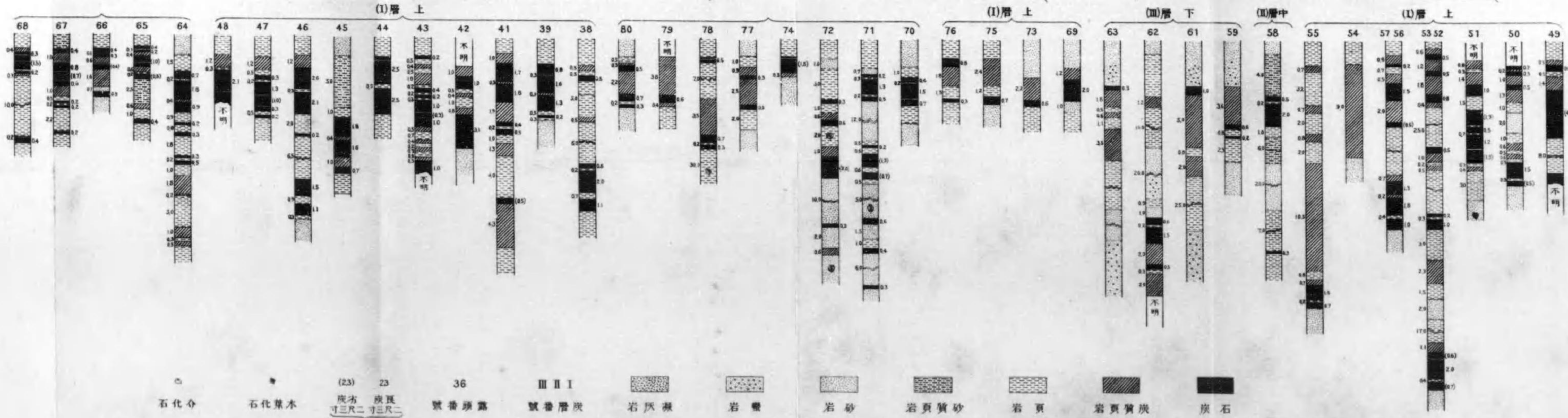
第二版

域流バシテ域區部北

域流川辛舌區新域區部北

域流バシテ域區部南

域流川辛舌區新域區部南



石化介 石化炭木 (23) 23 炭層 炭層 36 III I 岩灰凝 岩疊 岩砂 岩頁質砂 岩頁 岩頁質炭 炭石
 寸三尺二 寸三尺二 寸三尺二
 77層 / 炭石
 一之分百尺縮

終